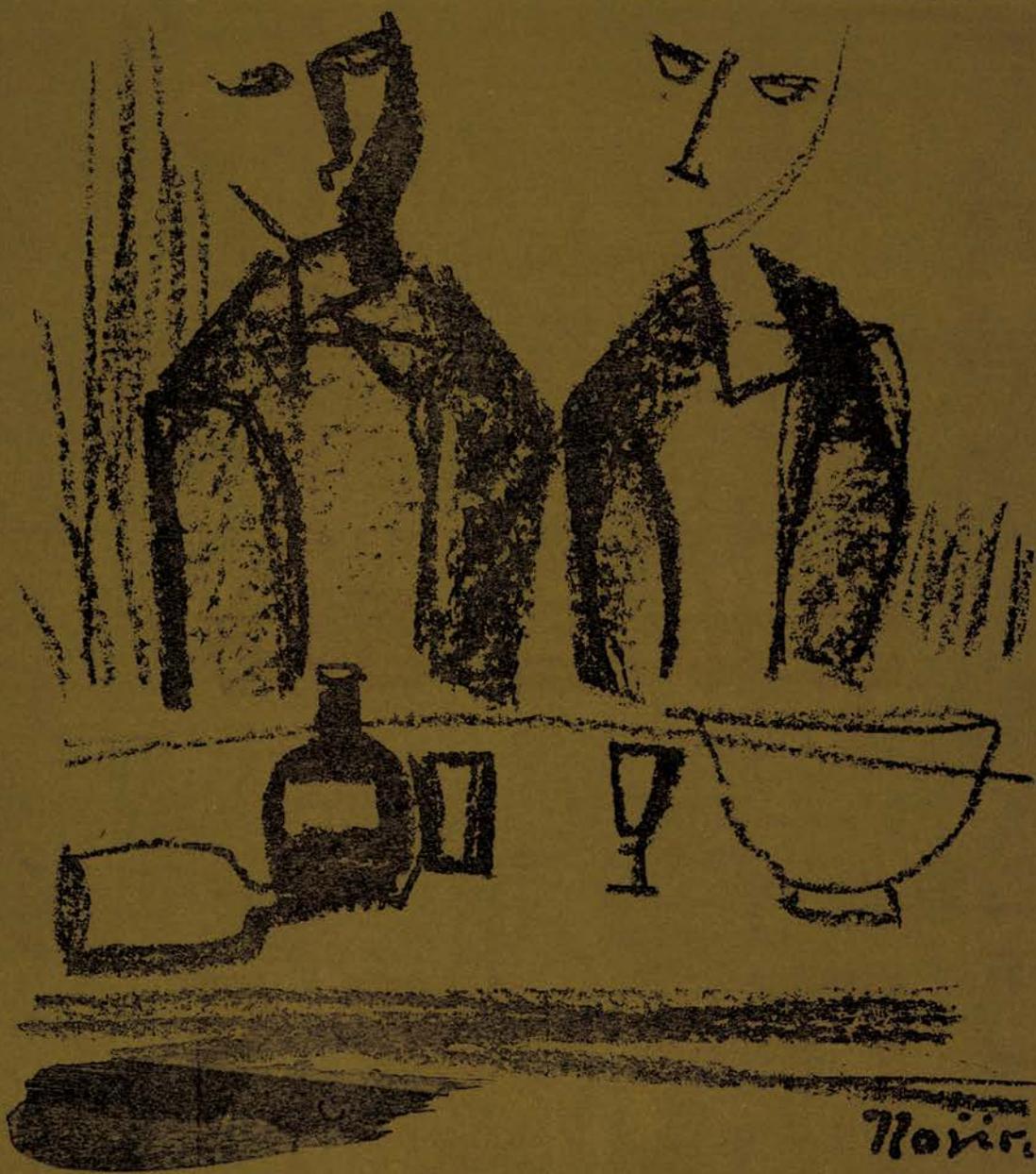


証雅の物川



麻生路郎女主人

十一月号

No. 414

Pensoj flugas trans la land-limon
THE SENRYU ZASSHI

川柳雑誌社主催

12月本社句会



本社文化の夕べ

文化の秋です。

読書もよし、作句もまたよしです。

日時 十一月七日(火)午後六時

会場 関西会館 (077400番)

大阪市天王寺区上ノ宮町四八

(天王寺電話局東隣り)

道順 市電上本町八丁目下車(北へすぐ東側)

兼題 「歌 学」(三題) 麻生 路 郎 選

(路郎選に限り七時〇〇切)

「服」(三題) 西尾 栄 選

「作業衣」(三題) 川村 好 郎 選

「地 図」(三題) 菊田いさむ 選

席題 三 題(当日発表)

戸田 古 方

柳話 ☆各題天位・☆路郎選天位に不朽洞賞カップ

呈賞 会費 百円

幹事 葉香・淡舟・いさむ・潮花・文秋・菊佑・狂二

・与呂志・白水・水洞・すゝむ・蕨風子・水断

・柳去子・舟遊・二三夫

★投句だけの方は郵券三十円

同封(〆切十一月五日)

大阪市住吉区万代西五丁目廿五番地

川柳雑誌社句会部

電・大阪⑥六〇八一

日本盛酒坊

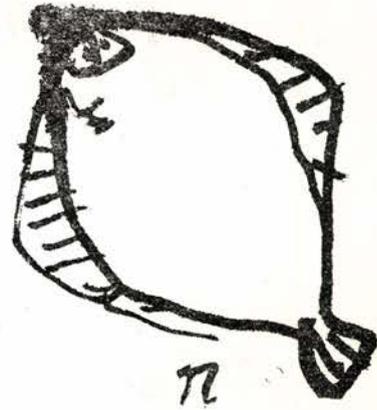
灘の清酒

ニホンサカリ

和やかに まず一杯



東京酒坊・八重洲口名店街
大阪酒坊・御堂筋道頓堀橋南詰



川柳 名句と難句

麻生路郎

於いて、習能に於いて、普通人以上である場合さえあるのに、野放しにも等しい取締規則しかないことを諷したのである。

〔二二三四〕

珍客にされて離れて寒う寝る

(紅月)

「よく来て呉れた」

と、夫婦して、下へも置かぬ款待はいいが、さて寝るだんになると、奥さんが、「どうぞ、こちらへ」

と、離房へ案内して呉れた。

離房はいたって静かだが電燈が少し暗らい。日頃あまり使わないと見えて、さむざむとした部屋だ。珍客扱いにされてかえって迷惑だが不平も云えず、寒い思いをしなから寝たと云うのである。感じの句であるが軽い穿ち味もある。

〔二二三五〕

けつたいな帽子マネキンには似合
い (涼髪)

変てこな帽子だが、マネキンが冠つてると、よく似合つてすばらしいニューアップションの帽子に見えるから不思議だと云うのである。たしかに、そうした点があることを思うと一つの発見には違いない。

「アラ、アラ、よせばいいのに、うちの姉さんが、もう、買って来たよ」

「けつたいな」は変てこな、おかしな、奇怪な、いやな、などの意の上弁である。

〔二二三六〕

ガム煙草アロハは口を休まざず

〔二二二九〕
キツした口を 医者へアーンと
あけ (愛魁)

愛人とキツしたばかりの口であろうと、なほろうと歯科医にとつては何んでもないことだが、歯科医へアーンと口をあけるとキツスしなことが判るような気がして、何んとなくくすぐったいのである。なかなかユーモラスな句だ。

〔二二三〇〕

求人難無職の父を通りすぎ
(麦彦)

近ごろの求人難ときたら、全くひどい。一つ、会社から一きよに六十人も引き抜いて、そ 会社の一部の機能が止まって、てんやわんやだと云うことである。それは求人難は深刻なのに、無職の父に呼びかけてはくれないと云うなげきをしみじみと詠んでいる。

〔二二三一〕
私ユーウツですねんと大ジョツキ
(花美)

失恋——ユーウツという径路が想像される。それを彼女は大阪弁で表白し、ヤケクソで大ジョッキをあおったのである。昔ながら恋病いから、胸の病いと云う径路を辿るのであるが、近ごろの娘は「うちユーウツですねん」の口だ。「うち」は大阪弁で、婦人、子ども用語で私という意だ。「ですねん」の「ねん」は「……のだ」と云う意。

〔二二三二〕

二枚落で孫の手ほどきする鎖夏
(千密)

鎖夏法の一つに、孫を相手に、「ドヤ、一つなぶってやろうか」と将棋盤を持ち出したのである。夏の日射は苛烈で、風鈴は少しも動か

ないという情景だ。平和な家庭の一コマをスナップしたもの。二枚落(にまいおち)は将棋用語で、対局する二人の腕前が著しく相違する場合、強者の方が二枚落(飛角をはずすこと)で対局するのである。

こどもが大人を将棋をさす時に、「おっさん、りょう、まおろしてや」と云うのが二枚落のことである。対局の場合のハンジキヤップはいろいろあつて二枚落に限らないことは云うまでもない。

〔二二三三〕

A少年署でも町でも困りはて
(宏方)

どんなだいそれたことをやっても新聞ではA少年で本名を伏せている。「なあに人を殺しても死刑にはならんよ」と非行に對してタカをくくっている。これが近ごろのA少年なるものだ。警察でも町でも濱の施こしがないのだ。彼等少年は暴力に

(八九寸)

アロハのあんちゃんはお口をふくんで口をモグモグさせていない時にはタバコをふかしている。タバコを喫っていない時には、ガムを口中でモグモグさせている。少しのひまも口を休ませないので、口もたまらないだろうと詠んだのである。アロハ族の特徴をガムとタバコでシンボライズしたところが面白い。

階段が云いますあなたも年だつせ

(惠二朗)

さすがに杖はもたないが、階段へ来る

と、いったん立ち止まって、上方を見上げて、イキを吸う。それから、おもむろに階段横の手摺へ手をかけ、ソロソロと登る。これでは階段からもう年だつせと云われてもまだり込むより仕方があるまい。擬人法で、自分に云いきかせるところ、なかなか手腕だ。

将棋倒しこらえた女の固い肘

(生薑)

電車の急停車であろう。みんな将棋倒しになろうとした。それをグッとこらえた女の肘にぶつかった。美しい女のやわらかい肢体に触れるものとはかり思っていたのに、意外にも固い肘だったので、幻滅の悲哀を感じたと云うのである。勿論こうした感じは瞬間的のものである。男性心理に鋭くメスをあてている。

湯の街のシンボルという橋一つ

(栞)

温泉街の入口の谷川に架かった橋にたたくむと、なんとなく旅人に旅愁を感じさせるものだ。そんな橋は湯の街のシンボルのように、どこでも見かける。山中温泉のこほろぎ橋などはふるくから知られている。こんな橋は湯の街の入口に架かっていて浴客の気分をそそってくれるもの、谷川で隔てられた湯の街を繋いでいるもの、浴後の散策が、ここから引き返す街外れに架かっているものもあって、それぞれに湯の街の風情を見せている。

病人がメロン切るのを指図する

(一十)

入院した。沢山お見舞をもらった。その中にメロンがある。メロンばかりはもらいでもしないと一寸口に道入らない高価なくだものだ。病人も、ソロソロ快方に向いたのであろう。杜許に並べられたくたもの籠から、メロンを取り出させ、「幾つに切りな

西成事件

(二四一)

しゃばはいいなーこんな大きなうさばらし

(満潮)

刑務所を出て、釜ヶ崎のスラム街に帰って来た男が、たまたま西成事件にぶつかった。の喊声が、「しゃばはいいなー」であった。

投石、放火、暴力で、日ごろのウツプンを思うままに発揮出来たからである。社会の底辺に圧さえられて住んでいても、ひとたび火がつけばめらめらと燃えあがるのである。

西成事件は昭和三十六年八月一日夜、大阪市西成区東田町で、警官の交通事故の処理の仕方がまずいと、附近の労働者や住民たち約三百人が派出所に押しかけ、派出所に投石、放火、パトカーや通行中の車まで焼き払うという騒ぎが起き、三日間にわたる無警察状態で六千人からの群集が釜ヶ崎一帯で騒いだのである。釜ヶ崎はスラム街であり、ドヤ街であるが西成区

のホンの一部分の地域に過ぎないので、西成区に住んでいるというので縁談がこわれたり、就職がダメになったり、とんだ悲劇も生まれたと聞いている。一労働者が交通事故にあつたのに、警官の処置の仕方がまずかつたので、猛暑の加減も手伝い、つね日頃のウツプンが暴動化したの

であつた。

四五枚の一万円札を三度よみ

(多久志)

一万円札の四、五枚。バラバラと数えるにしては、あまりにも少ない。それを三度も数える慎重さは、一枚ひつついても青くなる人間の心理を巧みにつかんで

皿屋敷のお菊が、一枚一枚と皿を数えるように、一枚ずつ放して三度まで数える顔が目に見えるようだ。

筆者曰くー



結婚式場 長生殿

近代的な設備をととのえた 関西一の結婚式場 貸衣裳も豊富にそろえております ●6階



大阪日本橋 松坂屋 TEL 63-1171

本稿は名作を世に紹介するため、後になつて句意が判かりにくくなるおそれのあるところを、前もって解説をして、句の難易を容易にしたという意味から筆をとつていたのである。従つて、それ等の句には五句というほどの句でないのも取りあげていることは言うまでもない。くだけた解説は川柳になじみの少ない人に読んでもらいたいためであり、難句へ特筆な注釈を施したのは時代がたつても難易出来るようにとの心づかいに外ならない。



奈良県 上田 翠光

重忠の窓かコトリと音もせず

夏夜着はふんづけられる事になれ

死の退院のあとへすぐ来るかせぎよう

豊中市 戸田 古方

雲助がついてきそうな蟬時雨

口紅を未婚の方がつけてない

西宮市 若本 多久志

給料日家を忘れた訳でなし

かくかくの次第と千円借りられる

可然哉へ無造作な盲判

死亡三負傷十五を見て飛ばし

大阪市 正本 水客

見られてる意識ちいさくあくびする

踊りましよとコップに口をつけただけ

高槻市 丸尾 潮花

父も脱ぎ子も脱ぎ母も脱いで夏

僧ひとり墨絵のように暮れて去に

桔梗一輪弱い女のように咲く

兵庫県 小西 無鬼

総本山知恩院大遠忌参詣

何の間と云う待遇も金のこと

久方の候文を読み返し

親に似た小言も明治生れなる

堺市 八木 摩太郎

妻だろか二号だろかと昼の風呂

大阪市 北川 春巢

残暑きびし寝蓐の糸も切れかける

タクシーに乗れば市電が邪魔になり

路地裏に詩のない暮し続くなり

住めば都こんな田舎に根をはやし

ホノルル市 築山 快夢起

二十年先のブランへ児の寝顔

スト知らぬ子らの食慾恐ろしく

ホノルル市 羽佐 閻柳葉

朝鏡年増鍍金の剣けたよう

言訳はこれだと辞表出す若さ

堺市 吉田 圭井堂

ドレス着た案山子に雀とまってる

遅配頼り料金不足だけ届き

君知るや補正予算と云う術あり

与野党が歳費稼ぎに開ける幕

山口県 長野 井蛙

しほられてしほって女ずるく生き

老先へ貯めた小金が死を早め

路切の汽笛ダンブが組み敷かれ

ドヤ街は前科の数で口をきき

岡山県 直原 七面山

イラでケチそれで女将はよく太り

盲へびにおじず師匠へ櫛をつく

田植時の病人都会へ引き取られ

春雨に墨絵のような京の街

鳥取市 河村 日満

入院

たかが鼻ぐらいの手術十日臥る

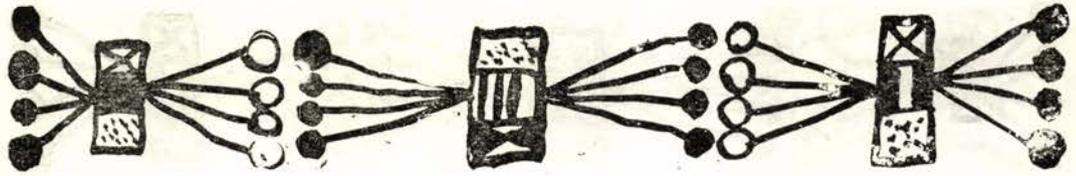
消燈してころっと秋の冷えとなり

豊中市 足立 春雄

中央市場噂人間のすさまじさ

靴みがきしても娘と清く生き

大阪市 安岡 珊瑚枝郎



物干に上る身重の嫁案じ

倉敷市 木村 千容

剛直なところそろそろ親に似る

不快指数の新語早くも熟しけり

耳も目も老化し世間せまくなり

温古会個性のままに老けている

誠実一路損したなとも思わざり

大阪市 木村 水洞

自信過剰他人のことは考えず

颯風のとぎだけ夫頼りにし

人命は補正予算でつくなえず

高槻市 福田 丁路

幽邃の仙境ビール滝で冷え

台風一過抜目なく儲け

兄胃腸手術

腕を組み目を閉じ手術思うなり

大阪市 真鍋 一瓢

台風

気象庁が正確無比で憐れなり

葱二本十円にした台風よ

窓に板後は台風まかせなり

そのポリュームに今日も堪え抜くハイビ

大阪市 後藤 梅志

魂が羽ばたきをした或る日の怒

宝石をつまむことを知らぬ理屈屋

奇れい好きメッキの剥げるまで磨き

米子市 小西 雄々

金持てばゴルフでなおる肩の凝り

核実験よりも株価が気にかかり

仙人が焚火をした霧となり

平凡な顔で犯人らしくなし

朝鮮の靴に似てきた婦人靴

大阪市 山川 阿茶

金持ちに見られる様に生れつき

毎年の事を又又あわて出し

娼婦にもこんな恋あり椿姫

大阪市 金井 文秋

借金でした改装と見てくれず

文なしに面白い程株下り

内風呂へ置いた玩具でババ遊び

加賀市 那谷 光郎

彼らしい引越し先を書いて来ず

背チャック一太刀浴びた疵に見え

村のバス鎌一丁が忘れもの

鳥取市 大西 八歩

淡泊はよし米の味水の味

かんしゃくを一服つけておさえてい

外交の今日はネクタイ変えて見る

夏バテの今日は帽子を忘れて来

下関市 桜川 不水

晩酌の胡坐に甘え子が寝入り

岡山県 浜田 久米雄

他人様に一歩遅れて芽をふかず

名をなして五十代とは淋しい死

灯を消して秋へずり込むように寝る

出雲市 尼緑 之助

軽く見た予報に降参して濡れる

台風之夜も痴情の後始末

京都市 大鶴 喜由

半分は拝み半分は遊ぶ京の旅

むこにする補欠はつなぎ止めてあり

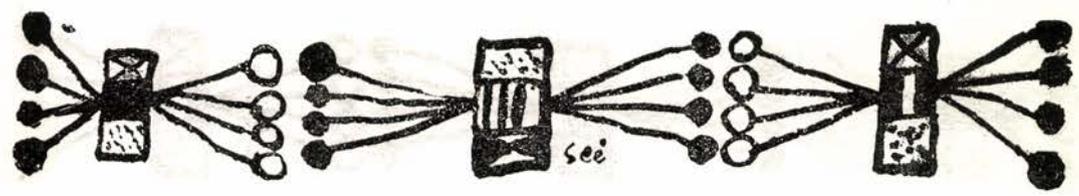
綺麗と云われ舞妓ものたらず

うらなりの胡瓜にも似た余生かや

奈良県 飯降 白香

知性などふみにじられて村に住み

虐たげる快感に生きるチャンピラか



刈り芒鏡くかごに立っている

なあんにも残さず死んでゆくのも美しかろ

家毎に風呂たく煙のなびく宵

奈良県 西 辻 竹青

よい養子でしたお酒は飲んだけど

孫さんが居るからなどと励まされ

呉市 林 野 甍 光

忠告はどつちつかずに励まされ

履歴書は見えて呉れなんだ雑務でい

尾を振ってひれ酒に酔う程に落ち

岡山県 福 島 鉄 児

宿の下駄履いて旅愁忘れに出

紳士の態度で汽車にのりそこね

岡山県 服部 十九平

常夜灯阿呆のように昼点り

世間もう忘れた頃に表彰し

智能犯七つ卸の過去を持ち

西宮市 若 林 草 右

ポリオには赤い白いはいうとれず

猶だけはなりとうないと猶で死に

岡山県 田 村 藤 波

うかつにも隣の事件を他所で聞き

主義主張曲げて世相についてゆき

愛情は子に継がせたくない靴直し

ピンポンの腕を旅館で妻が見せ

見島市 本田 恵 二朗

鼻筋を代々継いで美人系

京都市 松川 杜 的

セットの裏側の様な多芸趣味

はつきりとパチンコが好きと常務理事

新学期たんびにヘソクリ空になり

鳥取市 森 本 法 泉子

お土産の一つにうちの娘の習字

再三嶋美笑氏

絶筆となった賀状を別にする

倉敷市 松 村 万 古

科学の目開く玩具の侮れず

アルバイトだから三流で我慢する

肝臓に障わると仲裁上手なり

吹田市 橋 本 幸 男

旅行でもするかと暇な老夫婦

子の昼寝おへそへハエがつきまとい

堺市 高 崎 雄 声

たまさかに名刺呉れたは保険員

明治の眼女の行儀なつとらん

千万円が十分間いた僕の靴

島根県 藤 井 明 朗

新益へ決意新らたに子を抱き

女将から選挙の打診してもらい

岡山県 永 松 東 岸

ゴキブリのような男が汚職をし

新道路皆自動車で埋める気

別居していますのといういい女

何処へ行く雁か家中して送り

倉敷市 野 田 素 身郎

マニキュアの指算盤に馴染まない

数日で停年定期切れたまま

独身はいいな何時に帰ろうと

私と居るのに夜景に見とれ

大阪市 伊 達 堰 子

隣りから伝う洩りやと天井降り

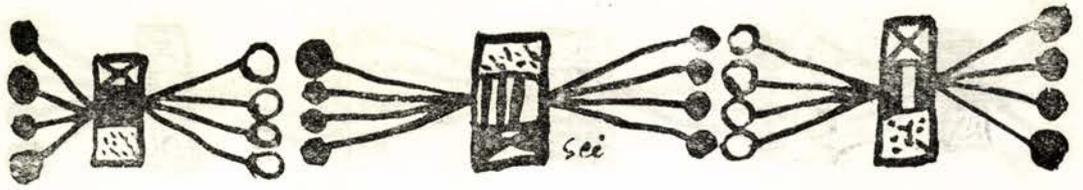
遮断機のしき逃げ庇うた訳じゃなし

句集ふるさと益の枝豆たべながら

夏やせて冬物見本上げ歩き

大阪市 不 二 田 一 三 夫

台風一過 瓦瓦の道が出来



全市停電むかしはこんな星月夜

兵庫県 酒井ひか平

パパに其処扱いて貰って編み続け

モデル地区になったお蔭で溝掃除

若屋市 丸川初甫

いかめしい肩書案外恐妻家

ふところへ風を入れてる県境

税務署の嫌味へ何んにもよう云わず

岡山県 池田古心

千円に今度逢う日を耳打ちし

男好き夫横向きさせたまま

大阪府 早川清生

しっかりせよとわが写真みる

もう少しで咲くコスモスに飯場閉ず

ビールでは酔わず画壇の隅に生き

B Gのかなしき土曜に墮しに來

將軍の多くは床の中で死に

会葬の列で債務を倒す肚

回転屋出れば風吹く冬の街

堺市 辻圭水

美人からおしほり貰えるよい使い

蠅にさえ学ぶことありその根気

事故起きて花火を恐いものと知り

大阪市 児島与呂志

何日値上しまんねんと車掌又聞かれ

退け際の不満は車掌にひっかかり

池田市 前川左文字

鉄骨を信じて震度三を寝る

七厘の秋刀魚秋をこがす幸

岡山県 池上知恵美

負けぬ気へ旅の疲れが出るも歳

思い出の月の色さえもう忘れ

抽斗のゴミでも捨てましょお留守番

パソソルへ夏の陽ざしがまだ残り

大阪市 橋高薫風子

病室に林檎健康色過ぎる

縋帯のとりかえ様も男親

叱られてプランコで空蹴っている

勤勉の額もるともに家を売り

下関市 中村九呂平

飽きのこぬうちに入籍だけ済ませ

シャツを着て出て出臍見つけられ

惜しいことでしたと他人だから言え

大阪市 榎本露児

修道尼やっぱり女の匂いする

日本ミイラ展にて

おもわざりミイラになって衆目に

大阪市 西川晃

人類の絶えた地球に月が照る

積尊もマルクスもなし本を売る

立読みにも燈火親しき候となり

しぐれ降るジャンジャン街をあてもなく

釜ヶ崎風景

親分の情婦と北海道へ逃げ

鳥取県 田中蛙眠子

馬肥ゆる候を寝冷えの粥する

社長秘書候文を書かせられ

征服感金が女を笑わせた

神戸市 仲どんたく

思い出し笑いを新婚見付けられ

パーを持つ悲願へホステス恋も捨て

湯ぶねにあごのせ今日のこと明日のこと

平田市 久家代仕男

不機嫌さ忘れたように花鋏

政治家のダークサイドは利に聴き

大阪市 本多柳志



従いて行く道のけわしき川柳忌

金のないレジャーは蠅にからかわれ

リバイバルソング大正琴も見せ

岡山市 光 好 陽 子

年金がついて夫は不用品

どの本をみても株を買え株を買え

金槌の音まで秋の音になり

西宮市 野 呂 鶴 汀

苦勞人論す言葉を持ち合せ

証文も取らずに貸した奴が死に

三代目親の遺産も底が見え

西宮市 樋 口 舟 遊

妻は女給ピアノへ野心ありあまり

マスカット貴族のような艶の青

新潟県 高野むじな

雨の松島も楽しい二人旅

病院の壁たいくつを書き残し

高砂市 吉 原 紅 月

鎌研いで明日の日和をうたがわず

感傷もなくあなご割く手に見とれ

宇宙船日本は奴風を上げ

大阪市 魚 住 満 潮

続・西成界わい(四句)

十五と十六夫婦にさして呉れと云う

アイシャドー男は徒食まだ続け

きつねうどん堅気になって呉れる子と

ライターの火で証文は灰にされ

愛媛県 村 上 旭 童

夜だけは秋となりけりきりぎりす

絶対に灸で治した事にきめ

倉吉市 大 前 鳴 恍

院長の嘘を信じている哀れ

この上に夏瘦せもした細りよう

目のごみをとってやったを噂され

大阪市 米 虫 一 乃 字

あっさりと別れなさいと言う家裁

恋すれば小高いところが好きになり

口だけは達者になった古稀をすぎ

神戸市 傍 島 静 馬

鮎の骨舞妓に抜かせて大文字

仲人が十人並にしていまい

布施市 森 下 愛 論

羨やましいとは二十代の肌

三十年もかける保険は敬遠し

ゆとりが出来れば鼠も肥えている

大阪市 河 井 庸 佑

解説に逆らうように相撲とる

扇風機残暑というにまいつづけ

女事務頭にきたよな自信持つ

大阪府 谷 沢 好 祐

パンツには馴染めないのも一徹の

真先に死ぬのは何時も歩であって

病床の指図で子等がめしにする

残業は逃げるが野球なら残り

大阪府 高 津 徹 也

印象を問えば作家は瞳をとじて

亡夫ならなんてあやすか生き写し

秋深し馬舎に調教師が一人

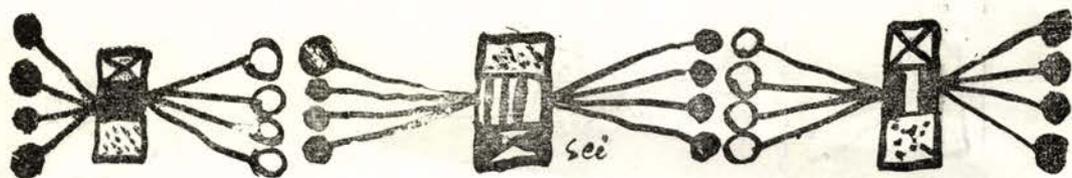
愛媛県 横 紫 光

差入れをしてまで憎いヒモを待ち

ああしんど一本欲しい顔になり

足だけを撮る広告も美女をより

跡絶えたらしい兵士の墓の草



青森市 工藤 甲吉

Y談ぐらいいでは税務署喜ばず

国会報告我田引水調になり

かなしみの中にも女バフ叩く

大阪市 今西 生薑

老らくの恋が家族を裸にし

産れては困る二号に手を合わせ

真因を語らず被害者脈がきれ

長いのにまかれどうにか長生きし

作業服それが一番性に合い

人情の機微を教えた釜ヶ崎

タクシーで来れば団地も近いもの

働いて働き抜いて死んだとき

京都市 室井 八九寸

美祿市 安平 次弘道

玉野市 伊原 明林

囚人の中で模範と母自慢

斬る役がついてタレントらしくなり

コンパクト女を無我の境にする

成功へ亡父の従兄弟というゴ仁

孝ならんと欲せば妻がいやみ言う

おきれいでしたと昔のことばかり

車折神社

山の死を美化して親を悲しませ

名月へしばし気を抜くパトロール

電化してお灯明代マル赤字

お迎えが派手なやくざの仮出所

敬老にならず食中毒になり

奈良市 内海 敬太

点と線結び捜査陣の凱歌

東になって咲いても淋し秋さくら

素裸の幼女に芸術を想わさる

宇部市 平田 実男

停年へ支所長代理という御慈悲

じゃ僕もと嫌なの一口申し込み

お車が来ました帰れとは云わず

松江市 小林 孤呂二

見るたびに形をかえて寝てる猫

日本も広いテレビのここは雨

予備校の子近視になった便りくれ

大学は政経酒にも強いなり

秘書と云う職うらやまれさげすまれ

くもり後暗釣竿を肩にかけ

岡山県 横山 一声

妻だけが一粒種の子と信じ

先輩がいるから出口の方で掛け

へそくりを作る余裕がまだ出来ず

大阪府 高橋 尚史

カトリックの洗礼を受ける

小松市 関戸 宗太郎

何処へなと嫁こかと思う三十過ぎ

風よ吹け風に負けない火を灯す

しんがりを行くドライブの菜ッ葉服

枝振りがどうのと庭師はかどらず

西宮市 山本 一傘

泣き付きに来たふるさとも四苦八苦

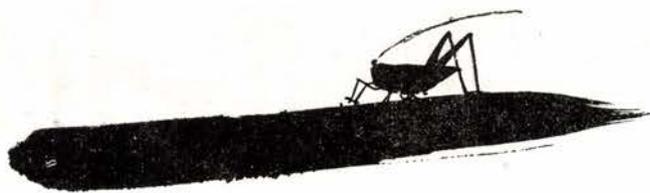
京に来りや二人で濡れてみたい雨

運がなかったんだと棺桶の中

石川県 高山 涼斐

鯉沢の鯉寄せてみん手をたたき

女性作句論



東野大八

「ある婦人学級の機関誌を拝見してましたら、ご婦人の方が川柳を作っていないさるのに出会いました。ホントにおどろきました。時代は進んでいるのでございますね」

ある文化人懇談会の席上で、こんな発言をしたおばさまがいた。おどろいたのはこちらの方で、しばらくはあいた口がふさがらなかった。時代が進んでいるので、おたくの頭の方が遅れすぎていますよ、といたくたくこちらは鼻の中がムズムズした。

しかし考えてみると、このおばさまの発言は、へなぶりか、低俗なある種の川柳観からきているのではないか、と思いがちだ。どんなお暮らしの、どの程度の教養を身につけたお方か、くわしくは知り

ようもなかったおばさまだが、とにかく品のいい五十をちよつと出たご婦人だった。

しかし、更に一段と深く思考をメグらせてみると、こうしたご婦人が、口には出さねど、まだまだこの世に数多く存在しているのではないか、という点に思いおよんだ。川柳をあまりにも肉身以上のことと解釈しすぎた、古い柳人のそれは先入感の冷や水ともほくにはとれる。といったことから、図らずもほくは「女性と川柳」という関連性について考えおよんだ。

もともと川柳を外観から眺める、ということではなく、同門の川柳する女性、ということについてである。

「川柳雑誌」をはじめ、全国各誌で活躍する女流作家の数は多い。しかし、多いといっても、男性作家の頭数にくらべるとものの数ではなく日暮れの星のように少ない。これは何も柳界だけのことでなく、俳句、短歌界においても同様のことでないか、また

この二つのジャンルに対し、柳壇はさらに一段と数が少いという気がする。

短詩型畑の女性という、こういう現勢から検めていくと、その指導力は万事男性側ににぎられているようである。これは、貴方のリードで……という一つの流れからきたものであるか、それとも人間として短詩型の分野にわけ入らねばならないほどの必然性のある意欲にもえたものであるか、それとも低きに水が流れるようにそこに自己を見出した人達であるか、いずれにしてもタイプさまざまである。

しかし結果的にみると、どうも男性から女性へ手をさし伸ばせ、そしてその世界の魅力へ、お誘い申し上げた向きが、多分に推進力となってきたのではないか。

ある女性俳人の一人が、そのかみほくにこう述べたことがある。

「女性の句は、ユニークな女としての情感を率直かつ大胆に句にするとき、すぐに活字

にしてもらえる、それで押し通せばたちまち世に売れていく、その点、女性はトクですな」

総じて男性は、日本人に限らずご婦人方にヨワイ、いや女性を見る眼が温かい。といった方が適當、それをうまく特典化すところに女冥利が出てくる、という註釈をその言葉のあとで彼女は皮肉な顔でつけ足した。

もとよりいかに女性の特徴を發揮するにしても、作句技巧の意欲的研さんがなければ、世界にも通るはずはないのだが、いずれにしても女性作家は男性側の作家にくらべ、持味と能力次第で、陽の当る場所に出られる度合はたしかに高いようである。

こんな話を思い出して、ほくは女性作家の句の体質というものについて考えてみた。すると大別してつぎの三つになった。

まずその第一は、星董派的少女型。第二は成熟した肉体的官能型。第三は中性的イヤがらせの年令型。この三つは

女としての成熟過程を年令的に分類したまでのようだが、齡には関係はない。年寄りの日に招かれても星やスミレの感傷型はいるし、年若くして水々しい女性でも、文学の倉橋由美子型もいる。まあ才能体験、思想、体質に応じ仕分けたものだが、総論は女性作家は論理性が強いのが特徴のようだ。

ところで赤青黄と三原色のように色わけしたが、これは短詩型の分野においてのことだが、川柳の場合はどうも中性的論理性が句を作っているのではアルまいか。というのは、作句の場における技法がなれてきて柳味を濃くするほど男性的向法に傾く度合が強い。

理知で風雅で道義的なキレイごとが主婦俳句の特質のようだが、その女としての行動半径の狭さがフェミニスト的選者の触手をあびている。これは俳句、短歌の場合に言える。それが川柳となると、抑揚のきいた抒情が健康的な合成の妙で、一種のてらいのない庶民性を打ち出している。

まるでプリのてり焼きに生しよりのタレをつけたような具合。川柳雑誌のご婦人諸姉の作品を拝見するたびに特にそれが感じとれる。「金泥集」という婦人常会がそれである。

われわれ中年以上の年輩の男性作家は、過分なほどのモロサをご婦人方に対して持っているようである。その甘さはとりどりだが、大まかにヨワイ箇条をぬき出してみるとつぎのような型になる。

- ① 情熱をたたえた冷たい才気
- ② 直視的な人懐っこい自己陶醉
- ③ 直情的な女の意地の誇示
- ④ 封建的忍従に徹しぬいた諦観
- ⑤ ギョツとさせる特異体質ムード
- ⑥ 稚気あふれる奔放な解放感
- ⑦ 自虐的なイヤガラセの独語抄

ご婦人というものは、ある年齢層をすぎるとなべて素直でなくなる。更年期の底からハッキリ顔を出してくる人間

打算の素顔。これはどこか男性の領域につながってくる素顔だ。そこに一面男性の反発も出てくることだが……。いずれにしても、女性作家は男性にないものが、その肉体条件や生理条件を裏つけてたしかにある。男女の区別なく、生命ある句への研さんが実って、作句水準も高まってくる。その句の中に、ユニークに生づいていく女流作家の才知、ほくたちの求めている世界はそこにあり、もつとも世のご婦人方は、正しい柳眼で、生きていく人間そのもののうたをきとんとん詠じ出して欲しい。

中途半端な女性作家ろんだが、筆の向くまま一寸一言。腹乃先生のご健斗をころろからおいのり申上げたい。

續

川柳書架

(14)

私達

(麻生路郎選集)

★巻首に、麻生路郎氏の序がある

★「あとがき」によると、本句集は川柳不朽洞会員で参加を希望された作家百四十五名の作品集であり、作品は「川柳雑誌」の「川柳塔」や「近作柳榭」その他に発表されたものの中から更に各自が二〇〇句以下を自選して提出されたものを更に麻生路郎師が一年有半の日時を費し、慎重に精選された珠玉作品であるだけに、麻生路郎選集の名も、そんなところから生まれたのである。

★本句集は裏に刊行された麻生路郎句集「旅人」(昭和二十八年十一月三十日発行)と麻生路郎句集「福寿草」(昭和三十年七月一日発行)とで三部作のかたちとなり、川柳雑誌社の句風の全般を認識してもらふこと、そしてそれぞれ人生に徹した深さと巾の広さを味読されたいとの念願の下に上梓されたものである。

★昭和三十三年一月廿日発行。A6版三六〇頁。定価三百五十円。
選者麻生路郎、発行者川柳不朽洞会句集「私達」刊行会委員長北川春集。発行所大阪市住吉区万代西五丁目二五川柳雑誌社。

半文銭句集

(木村半文銭著)

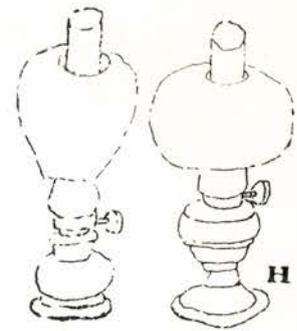
★本書は川柳叢書第三篇として刊行されたもの、次に本書の自序を抜萃する。

本「句集」は大正十二年より昭和五年の約八年間の作品を採録した。即ち小康、底、水原、影像、対照、川柳雑誌の六誌に発表した中より随時取捨して本「句集」を編輯したのだ。作品は能う限り年代順に列べて来たが、中には二三の移動があるかも知れぬ。然し、大体に於いては逐次、順を追うたつもりだ。

作品も、厳選すれば三十数句となり、すこし緩選すれば百数十句ともなろう。けれども、仮令拙くても見るかげもない劣作でも、その時は自信をもって発表したものであるから、不具の子は一層に可愛いという俗説通り、甚しく劣作でない限り、眼をつむって是を採録した。棄てて行けば結局三十数句しか貽らないことになるから、已むを得ず拾ったまでだ。(以下略)

★昭和八年七月十日発行。菊半截一二八頁。特製金宅円。発行所、京都市北白川伊織町、川柳叢書刊行会、発行人村岸清堂。

★本書は著者が革新川柳運動に参加した以後の作品集で後進必読の句集である。



久良伎先生の 生涯

奥津啓一朗

二

明治三十六年九月前記金澤堂より「文芸叢書川柳梗概」が発売された、今日これを見ると「柳多留」が嘉永三年迄に第三百八十三篇を出し等の誤りはあるがその内容項目は川柳史の大要、川柳の価値、川柳の内容、新古句法の優劣句法の研究、川柳の分類、川柳と風俗、滑稽と悪諷等に分たれ狂句の非を説き正しき川柳の姿を示したものである。

川柳にたいする先生の信念を年代を追ってたどってみよう。「古川柳は社会及び人生の描写批評に於て成功せし詠文の一なり」と。之れ確乎たる鉄案なるを信じて疑はず、然共それは古川柳が成功せしもの、換言すれば宝歴、天明後の江戸人士が社会人生の描写批評に於て成功せしものなり。而かも前

句なる十七字詩は、最初より人間を写すの外、別に滑稽の約束なく諷刺の約束なし。それは時代々々の人心が十七字に写し出されるものにして、川柳即前句付なる平民詩通俗詩は、必ず滑稽なるべし、諷刺ならざるべからずと云う条件は予め規定せられざるなり。

「川柳活眼」「五月鯉」明治三十八年十一月号）古川柳は社会及び人生の描写批評せる詠文と説き。又川柳は初代川柳翁選の古川柳即ち宝歴天明間の調を最上とするは柳壇の確定議たるばかりでなく、世上の識者も多く認むる所である、が、まだ狂句と誤解して損斥する人も少くない。また柳壇にあっては天保調を脱せずして新時代の時事風俗を野卑の調を以て味はず新狂句、又川柳の美は認め乍らも、其境遇の非社会的なるために自己の境遇発展を度外にして、理

想を加味して主観の無拘束俳句に出で、全く川柳の域外に超奔せんとする一部の青年、新狂句臭を脱し乍らも月並俳句を出でざる連中、様々に混乱せられて真に川柳の現出したる精神は深く理解せられない。しかも川柳美の通俗、社交等の方面に根底を有し、いかにして今人の見て尚芭蕉翁の所謂不易の名句として感心する、即ち生命が千歳の後にもあるかと云うことを深く考うる必要がある。即ち爰に古句研究の必要が生じた所以で、古句研究の結果を綜合すれば、以心伝心的に川柳に含まれたる快樂主義、耽美趣味が、孔聖の所謂三百一言以て之を蔽う。曰く思無邪に帰着することが出来る。江戸趣味を能く単調など云うが、我等は之を現代に於ける一個の大なる個性と見て之が発揮に力めたいと思う。（「古川柳に学ぶ」「川柳獅子頭」明治四十三年一月号）と古川柳研究の重要性を強調しているのであります。なごくなりませんがもうすこし先生の言を聞いてみましょう。

吾人の川柳の主観は単に自己の主観を十七字に纏めさえすれば詩で、ソレが川柳だと云う単純な主張とは全然出发点を異にして、川柳の名のみ存して其内容を失うことは吾人の忍びざる第一であらねばならぬ。

詩とは自分の主観を云えばそれで詩であるが、それでは川柳とは何かと云うと其詩が社会化したものである。其社会に美化したものの伴ったものが江戸趣味であり、川柳なのである。

それ故に吾人の唱導する川柳は、唯美主義の詩を云うのである。美とは何か、実感から遊離せられた快感を云うのである。梅花を雪にたとえ、桜の花を白雲と見、月の光を水の如くに感ずるのである。一種の錯覚と実感からは云えるが、真の鍛錬され洗練された感じから云えば、人生の万事明るい感じ、軽い感じ、愉快な感じに活きて、共同生存の目的を達したいとの主張なのである。（「錦鞋軒柳談」）

ソレでは、どう云うのが川柳かと云うのに、詩は絶対的だが、川柳は相対的である。相対的とは甲乙の社交に詩の加わったもので、個人の詩は人生を主として社会を貫く縦の詩であるが、川柳は社会を主として横に人生を行く横の詩である。大衆の気分の詩で綜合美の雰囲気を要するココに六ヶ敷問題が存する。（「久良伎柳談」）

コッチが最初から江戸の川柳が分り、八九分通り毛唐化している青年に、江戸を説き川柳を誦えるのだから、事は不可能に近い仕事なるは云う迄もない。ソレは江戸の心は、色彩と音楽とを共同生活へ取入れ、甲乙相對に詩の無我の心で親切を尽し合い、義理社交を重んじ、感激の生活を喜び、洗練せられた綜合の趣味に陶酔する美

肝疾患・疲労・二日酔

★総合強肝剤

ウロコ印



歌田薬品

リポコル

(12種の成分を配合)

20錠・50錠・100錠

詠 近 舟 同

須坂市 高峰 柳 児 化けもせず生後六十有余年
 臨終へ看護婦てきばきすぎるなり
 小使の役得ピースにむせている
 腕白の素早く逃げる足を持ち
 ひもつきの身の上ながら恋芽生え
 和歌山市 秋月 宏 方
 大ジョッキ胃袋別にある如し
 事故現場巻尺きようはいやな役
 湯の町を娘のような妓を連れて
 奥の細道今なら芭蕉バスで行き

大洲市 米 沢 暁 明
 辞書の手垢なるほど彼は勉強家
 損 損 損 話のわかる人にされ
 おとなしく家業をつげば食えるのに
 新居浜市 月 原 宵 明
 禪寺に秋は来にけり葉鶏頭
 はぎすすき淋しくここは無人駅
 核実験子供が花火買ったよう
 まま母が親切すぎるのでひがみ

的生活者であるから、経済第一主義生活が全体であって一銭二銭の利子を争い、甲乙相寄れば埋屑を闘わず現代人には全く夢の中の夢の話をしようなものである。
 (「初代川柳忌回顧」「さんにも」昭和九年九月号)

以上によって先生の主張の輪郭はおわかり願えたいと思う。先生は江戸を愛し古川柳の域を一步も出ようとされなかった。

三
 こうした先生の言動は江戸時代の名所史蹟を探訪し、故人の展墓を訪ね、廃れ行く江戸の風物を惜しんだ。

松井須磨子の初七日には新宿区弁天町真言宗多聞院(松井氏寺)で追悼句会を催し、同年四月三日には前記多聞院に抱月、須磨子の芸術比翼塚を建てている。
 昭和四年六月二日滝沢馬琴の贈位報告祭が当時の麹町区役所三階楼上で行われるや出席献句をし、同年八月十四日真宗高田派の本山新門跡常盤井上人を向島百花園に迎えて「向島と古川柳」を講演したり、昭和五年四月廿日江東区清澄公園で桜の例会があると出席

「古川柳と桜」と題し講演。病軀にもかかわらず川柳の会以外によく出席している。
 同年四月二十三日には九段上天、戴三味会の同人として五月一、二日、昭和三味会の出席、遊

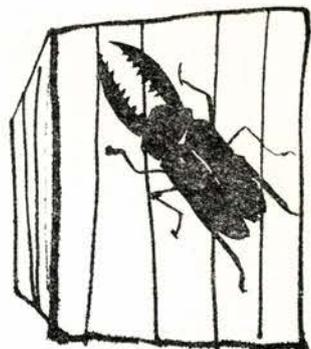
周梯で祇空忌を修し、五月二十八日には芝公園内妙定院に於ける山本香園女史主権の故高島式部五十年祭には補助として出席、第二会場では席上揮毫無料頒布三百点を書いている。
 昭和六年の新年には御近所の山階宮殿下に南天燭の画と川柳の色紙を、
 又品川の朝香宮第二王子正彦王殿下へは富士の画と川柳の色紙を差上げている。
 昭和六年一月廿九日には東中野の清見寺で笠森お仙の会を営んだり、同年四月廿六日には向島弘福寺の福外和尚を祭る会に出席、遊

三日上野公園貨幣梅川亭で展覧に席上揮毫に腕を振る。
 毎年大晦日の夜には王子扇屋にて狐火川柳会を催したり、昭和七年十月二十三日九代目国十郎の三十年祭には墓前祭又は染地八百善での追宴茶宴に出席している。
 その外東中野昭和通り一の十六青原寺で大正十一年十二月十二日に第一回の朱羅菅江の法要を営み爾後年々忌日に営みを欠かさなかつた。
 江戸を愛し宝暦天明の時代を心として、そこに溺れいする事をしなかつたといえ先生は信念の人である。
 人は奇人、変人というとも、悪罵、嘲笑を一身に浴びながら、言いたいことをいい、はたまたましたいことをして来たことはよしそれが報われずともこんな幸福なことはないと思う。
 私が先生にお眼にかかったのは昭和七年初代川柳忌に竜宝寺に詣で向島百花園にて作句某旗亭の精進料理の末席に連らなつた時と、川柳雑誌の東京大会で壇上の英姿を垣間見た前後二回にすぎない。
 晩年「川柳朝鮮」の投稿に目をとめられ文通、その秘蔵の俳書を書写して研究の一助にもといろいろ頂いたが、とても持って帰えられないので占領軍にだまされ、数

個の荷物にし、馬鹿々々しいことながら御町ねいにも保管料や運賃まで添えて京城に置いて来てしまつた。その代償として引揚後国家からいくばくかの国債をもらったが、衣類や其他の物はあきらめもするが柳書や柳誌は二度と入手の機会もなく残念に思っている。
 折角筆写までして送って貰いながら不可抗力とはいえ活用機会も得ずしまつたことをこの欄を藉り靈位にお詫びする次第であります。
 * (八月六日原稿の日)



ココロ 便箋



歐洲

とびある記

(三)

中島生々庵

チウリツヒ インターラーケン

六月二十六日午後五時半空港に着いて、これから汽車でベルンを経てインターラーケンに行くのであるが、その汽車の出る迄の二時間足らずが、このチウリツヒ滞在時間である。スイス最大の都市で文化の中心地であり観光都市でもある。スケジュールは残酷にも二時間しか時間を与えて呉れない。せめて時計王国のシンボルであり高さ百米と云われる時計塔を見るべくタクシーを走らせる。近くの店で記念のためにオメガを一個買って心の慰めとする。駅の近くに小じんまりとした銅像が立って居る。ベストロッチと云う教育革命論者で不遇の子らの愛育に挺身したそうだ。妙に心ひかれたのは私が小児科医者だからばかりでもなさそうなきもする。駅前と云うのに塵一つない実に清潔がゆきとどいて居る。ロンドンやパリで混雑した眼底を聖めてくれる思いである。

ベルンで乗り換えて、インターラーケン迄二時間半。初めて汽車に乗って無性に嬉しい。豪華な車内設備に驚いて居るうちに、何の合図もなくスルスルと汽車が動く。大阪駅の騒々しさに馴れて居る私にはベルも汽笛もないのがむしろ無気味な位。やがて食堂車の準備が出来た。このまま、一寸不安になって荷物はそのまま、いかと尋ねると、巨膝。車掌君、胸をそらして「スイスには泥棒は居ない」とキツイ顔をする。お国柄とは云え、羨ましい限りである。

時計の街 名残りを惜しむ
時間切れ
チックタックタックタクききむ
音で国が富み
泥棒は居ません お国柄胸をはり
汽笛一声なしにチューリツヒ離れたり

インターラーケン

十時過ぎインターラーケンに着く。明日は早朝出発とあって大急

ぎに入浴して就寝。然しこのあわただしい時間にも、このホテルのサービス振りがさすが観光地だけあって、旅行者の心あたたまるものがあった。ジュワイツェルホフと云うホテルがある。きれいな湖をへだてて、ユングフラウに連なる山々が眺められて、文字通り静かなホテルである。
旅すれへ 宿の冷たさあた
たかさ
一寸した笑顔が身にしむ
赤毛布

ユングフラウヨツホ

六月二十七日朝八時十五分発で、インターラーケンから登山電車に乗る。一等車は立派な設備で車窓からベルンアルプスに属する名峰が、次々と現われて来て雄大な絶景のパノラマである。途中ラウテルプランネン、クライネシャジャックと二回乗り換えて、十時五十分終点のユングアラウヨツホに着く。海拔三四五四米と云うところにこの終駅がある。電車をおりて歩き出すと、足がフワフワとし

た。

て、心臓の動きが稍々変調となる、呼吸も心なしか少し苦しい。自分一人がそんなかと、内心不安に思っている。一行のだけれどもが変な顔をして居る。気圧が低いのと酸素の稀薄のせいとわかる。岩石を畳み上げたホテル、ベルグハウスの食堂に入り、少し気分も鎮まった頃に昼食をとる。元気を出して四階までエレベーターで昇ると、氷河の底を穿った洞窟の様な杭道の入口である。身がひきしまる冷たさの中を百米程たどり行くと、山腹に窓をあげた形で外に出られる。あいにくの天候で視界は殆どきかぬ雪ふぶきである。洞窟に戻って奥に進むと、終りのところが広場になって居てスケートが出来る。スケート場の壁に沿って設けられた鉄の柵も文字通り凍てついて居て、手袋を持たない私にはさわる事が出来ない。漸く元の食堂の近くの売店のところ迄帰って来ても何となく落ちつかぬ心悸亢進である。土産物を買ったり、絵はがきを書いて静かに時間を過ごし、余り長居は無用と二時の電車に乗って下山の途に就く。インターラーケンを経てベルン。又乗り換えてジュネーブに九時半頃着く。旅行社の手遣いがきまると、二つに分れて室がきまる。小雨が朝から降って居たのも晴れて居るが、疲れと気温の急変のせいで、団員の中にもちよいちよい気分の荒さみがあったりして、ロビーとの交渉にひまど、やっ

と眠りに就いたのは夜半三時頃だった。これも旅の思い出と思えばむしろホホえましい一コマであっ

登山電車 カープにカメラ
忙しすぎ
ユングフラウ きびしく白
く立つ車窓
雄々壯絶 カメラ顔まけし
てござる
万年水結 山なみきびしい
笑顔する
右へ左へ 科学が挑むア
ト式
氷河の底 心細さが凍りつ
き
つめたさと気圧 ユング
フラウヨツホに耐え
酸素稀薄 ベン握る手のい
たわしく
あやしげな自信で 不安し
のび合い

ジュネーブ

六月二十八日朝、ねむい目を無理して六時起床。十一時五十分発のバス時間までに市内見物と買物を急ぐ。昨日汽車の窓から眺めた三日月形のレマン湖畔がホテルから歩いてゆけるところにある。街の名前、橋の名前、万年ペンの名前と云う工合にモンブラン、モンブランの文字があちこちに目に付く程、モンブランの魔障が市内から望めると云う。この風光明媚な港風景も一寸ふりむいた位の大きあわて方で、バスに間に合う。名残り惜しくも印象深いジュネーブを十二時五十分空港発でローマに向う。

今日は恵まれた快晴に、機上から見たレマン湖も美しく、昨日は吹雪に視界をとざされたユング

ラウの連山も言葉に絶する壮麗な
運き、私はこの一連の印象を眼底
に焼きつける事によって今度の旅
行の満足感が大半満たされたと思
で思った。北極で見た雲海の雄々
悠々とは又違った雄壯厳肅さを感
じた。

眠むた目に ジュネーブの
街あわただし
買ひものついでにレマン
湖眺めるとき
飛行機の窓にレマン湖ただ
すまい
ひと飛びにユングフラウの
厳肅さ

ローマ

午後三時ローマに着いた。

ローマに就いてはいろいろ聞か
されて来た。蒸しあつた事、人情
がガメツイ油断ならぬ事等々。そ
のむしあつたローマの街の三時は
まるで沈黙の街、眠りの街。人通
りもまばらで、窓と云う窓は皆閉
めて居る。窓を閉めることが、外
界の熱気を屋内に入れない唯一の
手段らしく、私達の人にはこの閉
め切った窓が如何にも奇妙に映し
て来る。ホテルは映画「終着駅」
で有名なテルミニ駅の前の五百人
広場と呼ばれるところに、駅と回
い合つて居る。私の三階の室から
駅や広場はまる見えで、夕闇せま
れば、ゆきここの人の群れ、タクシ
ーバスの乗り降り等手に取る様な
夜景である。ムッソリーニが強引
に建てたこのテルミニ駅は近代
な設備を誇る大理石の大建築であ
るが、構内に一歩入るとなんとひ
どい蒸し暑さである事よ。テルミ
ニ駅と回い合つて立つこのホテル

も立派であるが、敷が一ツ二ツ飛
んでくる。家庭では知らぬ蚕まで
私の血を吸つて逃げた。昼間室に
居る時は御免を蒙りまして丸裸。
それでも暑い。或る航空会社の宣
伝に「芸術と歴史の都ローマは、
抜けるような青空と輝く太陽のも
と、見物は古代ローマの遺蹟見物
から」とある。文字のアヤと私の
現実とは少なからぬズレを感じず
には居られぬ。夕食後附近の広場
を歩き乍ら一寸見物しただけで十
時頃ベッドにもぐり込む。

閉めきつて真昼の夢が結ば
れる
終着駅 映画で見えぬむし
暑さ
俺の血を吸うたローマの蚊
の行衛
眠むられぬ夜を噴水の横に
立ち

六月二十九日。朝九時半から市
内見物である。二千年来の古蹟、
建造物、美術品に富むことは世界
に比を見ないであろう。法王政治
の末期まで市の様式は古代及び中
世の色彩が濃厚であったが、その
後次第に近代化して現在の活動的
大都市となつたと云うことであ
る。

ボルゲーゼ美術館にゆく。ボル
ゲーゼ家が十七世紀の初め頃から
代々古美術を蒐集して全欧に名を
轟かす事に努めたが、やがて家連
衰頹と共に伊太利国家に買上げら
れる一九〇二年迄にはいろいろの
歴史が込み入つて居るそうで、ナ
ポレオン一世の妹ポーリーヌが浴
したと云う浴槽が列べられて居る
のもその辺の消息を物語るもので
あろう。

ボボロの高台からローマ市街の
大半を一望に収められる。次が映
画で有名なスペイン階段であるが
時間の都合でバスに乗ったままカ
メラに収めただけ。然し一行の中
にはどうしてもあの百三十七段の
階段と、バルカッチアの泉があき
らめ切れず、単独で夜景を味った
人もあつた由。往年行われた国際
運動競技のオリンピック村に往
く。八万人から十万人収容出来る
スタジアムと聞いては驚きもする
が、その大観衆を退場さすに十二
分位ですむ設備になつて居ると知
れば耳を疑いたくなるものである
。中に入つて見物する時間はない
かつたが、すぐ近くの外務省に隣
接した在米の運動場が、大理石ず
くめの大競技場として、これ亦大
理石の巨大な人像に囲まれて居る
整備さには、往時ムッソリーニの
意図が奈辺にあつたかも知えて感
慨深いものがあつた。パラッヂの
レストランに着いたのは十二時過
ぎ、二時半まで休息して元氣恢
復。ここで食べたアンズのおいし
かつた事が忘れられない。

グアチカン共和国のセントビー
タ大寺院に着く。グアチカン宮殿
に隣接して使徒ペテロの菩提寺と
聞く。ラファエロやミケランゼロ
等の巨匠が関係したルネッサンス
の代表的建築である。ローマにあ
る四百数十枚カ寺院の中でも、信仰及
び芸術上最上位とされるのも故あ
る故である。宮殿は法王の住むと
ころで、賊災も受けず、ローマの長
い歴史の姿を如実に彫刻や、絵画
によつて名匠の真価に接する事が
出来る。ルネッサンス美術の粋が
集つて居る点では世界一と云われ

て居る。今日は日曜日でシスライ
ーナ礼拝堂は後日にゆずる。パン
テオンは八百よろずの神々を祀る
ための神殿で創設は紀元前と聞
く。円天井の中央の大天窓。伊太
利の偉人や皇帝の合祀廟と云う。
疲れきつた驛をチボリに運ばれ
る。これは元々、個人の所有だつ
た由だが、大変な規模で、一口に
云えば一大噴水園である。南イタ
リア辺か、近傍からのお上りさん
の団体らしいものが、あちこちと
愉快な半日を楽しんで居る。カメ
ラを向けるとキャッキョウ云い乍
らポーズをとつて呉れる。赤毛布
の同類と云う親近感でもあろ
う。

ホテルに帰ると、さすがに疲れ
果てて、入浴後一時間はかりぐつ
すり寝込み、やつと八時の食堂に
間に合つた。

六月三十日。九時半テルミニ駅
を出てベニスに向かう。約九時間
の汽車旅行で、飛行機で味わえぬ
田舎風景が目を感じて呉れる。一
等車の貸し切りで、ゆっくり食べ
たり飲んだり眠つたり。時々びつ
くりする長いトンネルがあるかと
思うと、きれいな川が鉄道に沿う
て流れたり、目とどく限りは牧
草か農園である。その農園の行け
ども行けどもの広さに驚く前に、
働く農夫の影は殆ど見えないのは
どうしたところだろう。機械農具の
発達だろうか。炎天下の木田で働
く日本の農家が気の毒になつて来
る。

二時間位で停車した小さな駅
で、けたたましい婦人の声がホー
ムから聞えて来る。何でも自分
の荷物が積み遅れたと云うのらし

い。警官や駅長まで来て鎮めたが
結局婦人の思い違ひだったらしい
が、その騒々しい劇幕は一寸日本
の婦人では見られない図である。
そのホームで気付いたが、日本の
ウチウチに似たものを立ち宛りして
居たのには軽い嫉妬を覚えて懐し
かつた。

やがてベニス到着。ホテルは駅
の川向いのフアミレスホテルであ
る。
ボルゲーゼ 風呂呂桶にまで悲
史哀史
スペイン階段 夜景も百三
十七と云う
ムッソリーニの雄図が寂し鏡
技場
グアチカンでこれはこれは
の長廊下
国境もなくグアチカンの国
に入り
こじんまり世界の宝庫で君
臨し
神々が集るパンテオンは円
天井
噴水の展覧会を見るチボリ
車窓はるけく 農夫の影は
なく稔り

午後七時頃ホテルに着く。夜の
食事後は自由時間で、六七人でサ
ンマルコの夜景を見物に出掛け
る。この土地ではタクシーと呼ば
れるモーターボートで十五分位の
所。映画「慕情」でおなじみのサ
ンマルコ広場。レストランの椅子
に腰かけて涼しい風に当りながら
ココロを飲む。ひっきりなしに
グアイオリン合奏がエトランゼー
の旅愁をそそるようにサーピスし

ベニス

窓 口 談 義

— 五つの質疑に答う —

麻 生 路 郎

社宛に「谷沢好祐君が五つの疑問について、問合せがあったので私から簡単に回答することにしました。それは好祐君一人の問題でないと考えたからである。

(一)「てにをは」は、少々分り難くあつても自然に自然に心掛けて、破調又はぎこちない言葉を使つても、イメーヂをこわさない方がよいのでしょうか。

答へて、をばは文章の構成にも、会話の運びにも、非常に大切なものであるが、短詩聖の川柳にとつては、文章や会話よりも、より以上に大切なものである。特殊の場合を除いて、「てにをは」を無視しては短詩聖の文学は存在しないと思ふべきである。どうしても、そうした表現でなければ、自己の思想が盛り切れない場合、多少の破調やぎこちない言葉があつても、それはゆるまれるのであるが、なるべく破調やぎこちない言葉は避けるにこしたことはない。

明治時代に、華僑が、「奥さん、コレ、買つ、ヨロシイ」と云つて、品物を売りに来たことを思い出すが、この言葉は完全な日本語ではない。それは「てにをは」や、その他の言葉がメチャに省略されているからである。このことは短詩文学の構成上でも、い得ることである。しかしながら「てにをは」を省略したため、句が生き生きとする場合もあるが、それは「てにをは」が省略されているのであつて、「てにをは」を必要としないのではないことに思い及ばねばならぬ。

次に、「てにをは」の用い方が適切でないために、少々判りにくくなつても、自然に自然にと心掛

て呉れる。帰りはバスと呼ぶ乗合船。満員で賑やかなものである。ベニスの夜は何と云つてもあのゴンドラ。ロマンチックな権をあやつりながら、幾許かのチップを出せば自慢の美声で船歌を聞かして呉れる。

七月一日九時半ホテルを出て、昨夜涼んだサンマルコに着く。昨晩の夜景とは又趣きの違った広場に、数百の場の群れが人おしもせ近寄つて来て遊ぶ。炎天の日ざしはきびしいが、海からの風は涼しい。昔の宮殿と監獄と隣り合せて建っている前の辺から、モータールボートに分乗、有名なガラス工場を見学に行く。さすがにその技巧と色彩のあざやかさ、特にルビーの色はすばらしく、私もひきつけられるようにツイスキーセットを注文する。再びサンマルコに帰つて昼食。自由時間となつて商店街でガラス製品や革製品の買物をする。思ったより高価であるが品物は上等で信用もおける。ただベニスの商人と云うが頑固に値切る事を拒む。

五時半の汽車でフロレンスに向う。

サンマルコ「慕情」の主は今いずこ
コココラにベニスの夜風訪れる

夕闇に船歌流れベニスの旅愁
さし展べた手にサンマルコの鳩の群れ
コバルトとルビー 灼熱を吹くガラス工

フロレンス

夕方七時フロレンスに着く。アルノ河に沿うた静かな——静か過ぎる、北欧にも似た感じの街である。世界でも最も古典的と云われるこの「花の町」全体が芸術と文化の博物館見たいと評する人もある位で、日本人でも外遊の文学者芸術家は必ずと云つていい程、一度は訪ねる街であるといふ事。

七月二日。七時起床。今日は式場閉長と私の誕生日である。出発前から、詩聖ダンテの生れたこの「花の街」で、この日を迎える喜びをじつと胸に秘めて居た感激の日である。澄み切つた青空の下をバスは市内見物のために十時ホテルを出発した。

正午ガレリアアドウヒチと云うレストランに着く近に、ビッティ広場の宮殿と美術館を見学。サンマルコ広場にはミケランゼロが再建したと云うサンマルコ寺、その隣りの博物館ではアンゼリコの傑作「聖母受胎告知」を見たり、ミケランゼロの大彫刻に驚いたりして、サンタクローチエ寺に着く。堂々たる建築で壮麗を極め、多くの名士や芸術家の遺体が埋めて安置され、ミケランゼロもここに祀られて居る寺院である。「聖ララシシスの死」等と共に豪華な壁画が飾られて荘重さがみちあふれ、祭壇には今厳肅な祀りごとが行われて居る。

その横の方から廊下依いに別棟に入ると、これは、これは驚いた。観光相手の皮製品販売で大混雑。聞いて見ると、この寺院維持の為に修道学生たちが、アルバイトの形式で皮製品の製作実況を見せたり、直販をやつたりする

のだそう、その積極性は日本の寺院や神社のやり方等はお話にならぬデパートの特売場よろしくである。財布と煙草ケース二つ三つ買うのに汗だくである。

ホテルに帰る。八時から私達二人のために団員諸子から、誕生祝宴を開いて貰い、記念品迄頂く。今晚のこの感激は、どんなことがあつても忘れ得ない生涯の記憶として残るだろう。お陰でジャンパンが少々回りすぎ室に帰つてぐっすり寝込む。

文化のにおい静かにダンテを生んだ街
衆生済度 そのかたわらの商魂よ
フロレンス この感激の誕生日
ジャンパンが旅の疲れの腹にしみ
ダンテを生んだ街で 私の誕生日

再びローマ

七月三日朝九時発の汽車で再びローマへ。

テルミニ駅からホテルに立ち寄らず、バタックと云うレストラン直行。ここは都心から相当な距離で、古色蒼然と云うか、一步屋内に足を入れると陰惨に似た空気に包まれて終る。異様なローマの灯が食卓の上にゆらゆらして居る。室内には古い馬具が懸けられ、ニンニクが乾かされている。昔昔南北から来た馬喰が、ここで中継ぎの食事をとつたと云う歴史を見せて居るのだ。ストックホルムでのスエーデン料理を思い出したが、同じ「馬の舎」でもこちらはぐっ

か、という質疑と見て、お答えする。それはその通りである。自分でも判りにくいと思う句を作ったところで第三者が感じ取って呉れぬのでは意味がない。

次に、熟練者は分り難い句を作つて居るとよいのでしょうかとあるが、熟練者というのは年季を入れた作者という意味に解していいのであろうか。そして、「分り難い句を作つて居るとよいのでしょうか」は変なもので、「分り難い句を作つてもよいのでしょうか」と解して、お答えすることにした。この答は簡単である。なるべく分り易い句を作るにこしたことはないが第三者に分り難い句であらうとも、作者が、それより外の表現が出来ない場合は、よしや分り難くても、句の良否は別としてそれは作家の自由である。その場合鑑賞する力を持たない初心者はその作者に教えを乞うか頼むしければ只読み流すより仕方がないとも云えるが、繰り返し繰り返し読むことによつて、いつの間にか意味が判つて来る場合もある。初心者に対して説明し切れない味やニュアンスは鑑賞するものの感受力の程度にもよるからである。

(三) 分り易い句が皆月並の句になつてしまふものでないと思ひますかどうでしょうか。

答—仰せの通りである。分り難い句が、すべて非凡な句とは云えないのと同じである。

自分の句を例にあげる非礼をゆるされるなら、「俺に似よ俺に似るなと子を思い」の句は、分り易いと云えば、これぐらいつり易い句は少ないであらうが、私自身、

月並な句だとは思つていない。

(四) 後輩は先輩の句を評しなさいか。という問いに、先輩の句を評つて、ただ分らないながら結構ですと言つてしまつたら、それをよいのであろうか。自分なりの考えで、これをどうしようかと思つても構はないのであろうか。

答—後輩が先輩の句を批評することは何等差しかえなないと私は思う。むしろ批評することによつて、得るところが多いのではあるまいか。しかし批評を公表する場合には文学批評であることは勿論である。非議したり、ふくむところがあるので、その批評の仕方が問題である。尊大不遜な筆で批評し、先輩の怒りを買うが如きは賢明な批評だとは云えぬ。又、批評された先輩も、冷静に、聴くべくは聞き、誤解は正すべきではなからうか。そこに所道の向上があると思ふべきであらう。と云わねばならぬ。

(五) 以上の諸問で、どのような時は、それがゆるされて、どのような時は、それが不可なのでしょうか。

答—この問題には、もう多くを答える必要がないと思ふ。どんな場合でも、批評は先輩後輩にかかわらず自由であること、その批評は常に文学的であると云うこと、尤も自由にも限度のあることは敢えて言評だけではない。

と、げてもので酒の味もドギツイ。ローマで一番古いイタリア料理を食べさせること云うので一人一人が原色染の模様ナフキンを首からかけて待つて居る。やがて運ばれたのは所謂古典イタリア料理、一皿毎に油ぎつた、ニンニク臭豊かな大盛りで、到底三分の一も食べきれない。調理場に特殊な設備の肉焼室があつて濃々と煙を上げて居る。食指の動かぬのは、あながち旅の疲ればかりでもなさそう

な。まさか逃げる程でもなかつたが、この記念すべき昼食をすましてバスに帰る。

システイナ礼拝堂に着く。建物としてはさして大建築ではないが、天井に描かれたミケランゼロの大作と「最後の審判」や大名匠の手になる壁画には、ただ茫然たるの外はない。

カラカラ古城は時間の都合で内部の見物は止めて外郭を一週した。カラカラと云うのは短い頭巾付きの上着の事で、この上着を当時の皇帝が常用して居たところから、その皇帝の綽名をカラカララと呼んださうだ。

テルメ騰墟にはその昔、千六百人を容れる大浴室、大社交場としての建築、その周囲の庭園には大スタジアム見物席を設けてその当時の威容を誇りして居たと云うが、その一部を残す現在の「猫のすて場」の姿はカメラを向けつつも、往時の享樂的ローマ文明が思はず私の頭の中を冷たく貫いてゆくのだ。

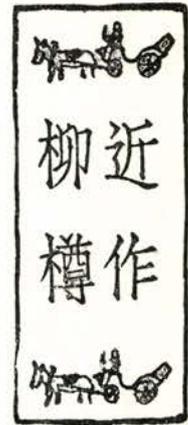
有名とどろく暴帝ネロが振った迫害の叩が残るコロッセオの闘技場も、夜景が大変いいさうだが割愛する。

トレヴィの噴水もお上りさんには見落せない。ウエネチア広場から抜けたところにあるが、映画「ローマの休日」でおなじみの噴水である。来て見ると大した事もないと思ふのに、噴水の都と云われるこのローマでも有名であるのは旅人が、ローマを訪れることが出来ること云う伝説があるからださうで、二つの人魚に導かれる海神の像が大きな目の上に車上勇ましく立って居る。私はコインを投げ入れる代りに、この噴水の近くの店で、靴と帽子を買つて帰つた。御縁があつたらそれらを身につけて再びローマ訪問と出かけるつもりである。

四五日の間をおいて、再び帰つて来たローマは、ホテルのボーイやメイドまで何となく親しみを感ず、人情と云うものは面白いものだと思ふ。ローマと云うところは人心險悪で物騒だとしきりに詰め込まれて来たが、実際は左程でもなく寧ろ、ロンドンやパリに比べて同位感と云うのか日本人を見下すようなところもなく、物の紛失等もない。ただチップが少々うるさ過ぎる位のものである。辛抱して居た散髪をホテルでやって見ると、実に簡単なもので、糞丁寧な日本のやり方もさりながら、これではあつてにらまれるのが当然である。約日本銭で三百円だから安くもないが、これが最低なのだ。しかし愛嬌のいい爺さんで「ドクター、ペリナイス」と合せ鏡を出して見せるあたり、ははえましくさへなつて来る。市内見物の案内をして下さった千葉さんも、五六年前とは余程街の人達もすさまじく取り戻し、一人歩きが危険などと

云う事はない。寧ろ泥棒や乞食やタカリ等より、智能犯の方が多いから、少々英語が出来るからと云つて、見知らぬ人に話しかけたら、心を許す態度は憤しむべきだと注意して下さった。昔から云われる「ローマかたぎ」と云うものがあつて剛毅村直勇武と云うものと、功利主義と云うものは現在でもはつきり残つて居るさうである。

ローソクの灯に馬喰を偲ぶ酒 これでもか これでもか大盛りのげて料理 氣に入らぬ散髪中途でやめられず 散髪へ三百円がとこ刈つて 最後の審判」御主人格の座におわし 脇役は「モーゼの旅」が引き上げる 見上ぐれば旧約聖書に見つめられ カラカラをぐるりとカメラ委される カラカラの煉瓦 栄華の色でくち 暴君ネロ 悪夢に追われ血に狂い 殉教徒命ささげた獅子の牙 トレヴィで又会う日までのコイン投げ 今日投げたコインの明日が 氣にかかる ポリサリノ 颯爽と帰朝するつもり がめつさをローマかたぎとほめておく 旅馴れて歩中も外人並みとなり



麻生路郎選
北川春葉選

こぼれると埃扱いされる胡麻 大阪市 堀 風仙洞
 ダブ 大阪府 うちの婆さんキタナがる 同
 ユーモア作家妻へ無口の日がつづ 同
 ほれている弱さあれこれ引受ける 同
 かど火焚く娘も嫁もワンピース 同
 端株持つようになり社説読 同 同
 御詠歌と炭坑節の地藏盆 同
 歌謡曲ひびく平和を愛すなり 福岡市 田口 麦彦
 分譲地のピラ停年をいらだたせ 同
 ビール酌ぐ音もテープに座談会 同
 殺虫剤とセックス今年も夏終る 同
 ママさんと呼びこの店はカケがき 同
 証券マンもやっぱり秋の貌を持ち 同
 表彰は不幸続きのはてにされ 愛媛県 河本南牛史
 無免許はさてさて道のせまいこと 同
 仇討ち仕度で出かける釣り天狗 同

海底の石の太さも知って釣り 同
 伴せと云われた釣りで風邪を引く 同
 猫の梳ひからびて妻の留守 竹原市 山内 静水
 正論を通し孤独をふと感じ 同
 銀行の椅子が庶民にこそばゆし 同
 息技に田圃も僕もほしい雨 同
 他人の子をほめほめ孫の世話に 同 同
 台風を仔猫は仔猫なりに避け 玉野市 小谷 仙山
 手拭が真黒風呂も値が上り 同
 ライターを見兼ねマツチを借 同 同
 苦勞性自分で云うて世話が好き 同
 見舞だけもらって面会謝絶なり 同
 人生へ道草をさすレントゲン 京都府 大久保 三郎
 味気のう補聴器へ入る虫の声 同
 袖なしの娘が蓮葉めく秋日差し 同
 立退いた数へ社名の板囲い 同
 秋の風おしゃべり生氣とり戻し 竹原市 杉原 愛鳩
 易断へ礼にゆきたい程あたり 同
 社会科の知識で株の助言する 同
 株でもうけてみんなが馬鹿に見え 同
 サイレンもなれっこ 同 街に住み 兵庫県 遠山 可住
 風吹けば嵐雨降れば放射能 同
 御視察へ陣頭指揮の草むしり 同
 四畳半にきかす気で虫鳴いとらず 同



座談会で

直原七面山

先日ある吟行句会に招かれて出席したところ、句会後の座談会の席上で、
 〃どうも周囲の人々が、川柳の良さを理解してくれないのは困ります。みんながどうも川柳を、俳句や短歌にくらべて一段と程度が低く、下品なもののように思っているのはなぜでしょう。〃と云う質問に接したのであります、
 〃その時私は、
 一仰言るように、川柳をしない人達はたいがい誰れでもそのように思っているようでありますが、よく考えてみますと、彼らがそう思った云々たりするのにはそうするだけの正当な理由があつてのことであつて、それを無下に責めるのはどうかと思つたのです。
 彼らも一応短歌や俳句には興味を持ち、それそれの良さをたとえ充分とまではゆかなくとも理解はしており、短詩型文学について全く無理解と云う訳ではありませぬ。
 また、ことが川柳であるからと云つて、故意にこれを忌み嫌わなければならぬなんの理由も浪擧も彼らが持つていよう筈もありませぬ。



鏡など縁遠くなり今日も野良

同

母病んでエプロン似合う娘に育ち

宇部市 神田 豊年

人柄をシャツの折目へ強く出し

同

文化財とされて家業として立たず

同

ミコヤン訪口 一旬

恐い隣から親切売りに来る

河原みのる

なさけなやまた空前の稲が出来

同

胸一ぱい入れた涼風僕のもの

同

養老の滝にて 二旬

凡庸が汲めば養老唯の水

半田 夏生

滝しぶき受けて孝子にあやかる気

同

本名で来たたら税金督促状

常岡 孝風

子が好きで分教場を捨てられず

同

酔筆の色紙へ威儀を正したり

野口卯之助

相談に行けば兄貴も他人じみ

同

死にまると云うて白髪を染めて居る

鳥取 周甫

愛想はテレビにさせてほっとかれ

同

ロボットのよう親父のラジオ体操

中川 晃男

盆踊りさす手引く足また違え

同

みんな肩組んで伴せそうに撮り

川又 庸児

標札の一字をおおうかたつむり

同

離婚した夫の地位が気にかかり

鶴飼 鮎子

見栄と義理笑う外に仕方なし

同

落ぶれて昔を偲ぶ舞扇

沢田 恵甫

笹舟に幼児の希望乗せてやり

同

人生七十ちよっぴり悔がない

小川静観堂

人並みに貧乏の味かみしめた

同

子に貰い孫に取られる祖母の金

坂上山椒坊

彼得で女の尻押すラッシュアワー

同

一人っ子朱に交わって家出をし

護川 梢月

待ち針も錆びて絶安まだ続き

同

出発の時刻を米とぐ母が聞き

波多野

電話まで恋の邪魔して混線し

同

丘の墓他人が住むのに追い出され

谷口鈍愚坊

漫才や落語で核の外に居り

同

タイムスイ夫で気に入らず

白石 良主

春夏秋冬女財布の柄も変え

同

香港で残りすつかり土産にし

里田一十

カーテンを切抜いたよな服で来る

同

残り物たべてお医者世話になり

斎藤たけお

レジャーブームお墓の掃除は

同

茶会への装別な顔になり

三上 芙路

茶会での讚美の世辞もまたたのし

同

古稀の旅餞別旅費を上廻り

山川 勝子

楽しみの旅も土産に一苦勞

同

何の話か医者と坊主の立話

松本 忠三

焼香はお義理花輪の数を読み

同

むしろに読書したし別れて

吉田 博一

く買ってくれないからと云って、ただそれだけのことで、腹を立てたり不平がましく愚痴ってみたりするような浅ましい見苦しい態度は取れない筈です。もしもそんなことがあったとすれば、彼らはこのときとばかりに気負い立って、

「自惚れも良い加減にしろ。身の程を知らぬにも程がある。三文の価値もない妙な句ばかり並べ立てて一体その句のどが良いいんだい。我々の心をぐっといかす燃えたいさせるようなものはなに一つ持っていないじゃないか。全くもって笑止千万だよ。」と一矢酬いるばかりでなく、益々川柳を窺しみにくいものとして遠ざけてしまおうでしょう。

昔の謔にありましたね、
「桃里云わずして道をなす。」
そこで我々川柳家に課せられた使命はなにかと申しますと、それは高遠な斬新な川柳理論を打ち立てるのではなくして、目下の急務はなによりも先ず立派な川柳作品を引っ提げてこの大衆の川柳に対する無選と闘うことであります。

従って私達がこうした重大な使命のあることも忘れ去って、従来どおりのおごなり句を作って悦に入っていたのでは、これはもういつまで経っても水久に大衆の理解は得られず、彼らは川柳にそっぽを向いたまま、
「あれは暇人の、舌川罵詈雑言の愚にもつかない戯言さ。」と云って、川柳を川柳人をののしるのが園の山でしょう。

悲しいことですがこれが川柳の



慰謝料とつて胸のいたみま癒えず 同
 形勢が不利で持病が起りかけ 大阪市 川口 弘村
 手術場の汗タイムングよくふかれ 同
 晩年へきまりの悪い子が産れ 竹原市 大洲大八洲
 腕力があって素行がおさまらず 同
 手のひらに夢をにぎって生れて来 ★岐阜 藤原 君子
 母の愛一杯吸って来た晴着 同
 海へも山へもテレビで避暑をする 西宮市 松島 光一
 けだもの住まない男に魅力なし 同
 坪方に売れたで石塔でかくし 守口市 樋口 一峯
 我が家になって天井高く見え 同
 里帰りすっかりお客になって居り 富田林市 浅川 八郎
 長病みへ蠅ぐらいしか寄りつかず 同
 首にした男と釜ヶ崎で会い 大阪市 加川 大然
 陳列を覗けば靴屋靴を見る 同
 咳一つ気兼ねなく出来る旅の空 西宮市 沖吉 照児
 赤ちゃんが増えて景気よい話 同
 株持たぬ身は暴落も心地よし 堺市 沢田 美喜
 大掃除無事つとめたと云う便り 同
 ラブシーン思わず休むガムの口 大阪市 山田 蛙水
 なかなか美人の来ない採用日 同
 マスコット有料道路へおとなしい 今治市 越智 一水
 酒飲めば婦人部長も愚痴が出る 同
 七夕の笹にむすんだ子等の夢 大阪市 稲森けい女
 家屋敷娘も飲んで飲み足らず 奈良県 木村よしお
 有難や憲法通り生きている 豊中市 土井 北桐

手帳には数字ばかりで株が好き 鈴鹿市 吉田 俊和
 程々に済ませぬ気性でやせている 大和郡山形市 松本 峰水
 人の価値も金で勘定する時也 津山市 久保 節子
 拾鉢の寸前愛の灯がともり 玉島市 井上 旭峯
 失職の友を上げます二合びん 松山市 沖原 光雄
 初歩ギター音痴に合った音を出し 玉島市 田辺 好女
 鉛筆の落書これだけ背が伸び 大阪府 中岸 雄水
 リバイバルブルーム みなもとも 好きな歌 松江市 岡崎 祥月
 一騒ぎして婦人科へ送り出し 津市 鳴野ひろし
 秋口のルーム・クーラーよく動き 大阪市 山田 迷朗
 豊作を神楽は派手に舞い納め 岡山県 岩道 博
 浮気のように女中両手にテヲ持ち 岡山市 行百 輝次
 社長がと云えば腰の浮く速さ 岡山県 久戸瀬春光
 くろうとも跣足と日曜大工おてら 河内長野市 森本黒天子
 小便たれしても笑顔の母性愛 茨木市 高木繁太郎
 衝突の弱点となる方にある 神戸市 吉田 隆史
 外人の箸へ小謙は逃げ廻り 八尾市 片上 光福
 蠟細工の味の見本に迷うと 和泉市 末田 晃康
 看護婦になっても母にまだあまえ 七尾市 松高 秀峰
 息抜きもこれまで課長帰って来 笠岡市 大内 尉介
 アルバムにはねぬ写真が二三枚 大阪市 中西兼治郎
 市役所へ市民訓示を受けに行き 羽甫市 三宅 ろ亭
 小児マヒかんかん照りに親並び 大阪市 萬代句念坊
 看視するように子守は親慕い 松江市 岡崎 雪美
 せわしない光る鳴る降る又光る 姫路市 隠岐 不酔
 割引いた値段へ妻はまだねばり 神戸市 岩井千恵子

詳らざる現実の姿なのであります
 ですから私達が、やれこの句は
 天の地佳句だ名吟だといくら大
 騒ぎに大騒ぎを重ねていたとして
 も、それはもう私達川柳愛好者だ
 けの狭い世界での出来ごとであっ
 て、その句は決して、名吟佳であ
 ろうとも、一般社会に対してはさ
 ざ波一つだに立てる力も価値も持
 ってはいないのです。
 即ちこの名句の市場における価
 値はゼロに等しいのです。思えば
 淋しい限りではありませんか。
 ではこうして川柳の前に立ち
 だかる壁を突き破るのには一体我
 々はどうすれば良いのかと云うこ
 とになるのですが、それは
 ただシャムニ作品の高度化を計
 ることであります。
 文学価値の、市場価値の豊かな
 香り高い芸術品を創り上げるこ
 とであります。
 少くとも短歌や俳句をしのぐ優
 秀な珠玉の作品を持って、世の中
 のありとあらゆる柳誌を埋めつく
 し、月刊雑誌の、週刊誌の、新聞
 紙上の川柳欄を美しく飾りつくす
 ことであります。
 高度化された川柳とは、市場価
 値豊かな作品とは、短歌や俳句を
 しのぐ句とは果してどんなものな
 のか。
 そしてまたそれらの作品は如何
 にして生れて来るのかと云ったこ
 とについても、私は私なりに現在
 確たる考えを持ってはおりますが
 余り時間も長くなりますのでまた
 の機会にお話しさせて頂くことに
 しますが、大体私の話の内容はお
 判り願えましたでしょうか。「と
 お答えしたのであります。はて
 読者のみなさんには如何でしょ
 う。」

評句

リレー



東京部

山根白星

石川県

山上千太郎

岡山県

直原七面山

大阪府

後藤梅志

絵はがきへ連れた女の名は
書かず

白星「連れた女」は、妻君で
はないでしょう。いい気なもん
です。

千太郎「いい気な一人の観光者
を詠いあげているが、連れの女性
が表むきでないという常套性が甘
いようです。

七面山「上五中七で下五の〃名
は書かず〃を明らかにしかも判然
と暗示し、読者をして予測せし
めているので下五は全くの蛇足に
（無駄な説明）おちいり句の価値
を削減しているのは惜しい。そし
て句の余情も、予感もふんわりと
した情緒的なものも一切を冷たく
消却してしまつて味気ないもの
にしてしまつてゐる。句想は頂
けます。練り直したらもっともつ
と素晴らしい句になるのではな
かろうか。しからばいかにと言われ

れば僕も困るのですが、

「絵ハガキへ連れた女の句いが
し」でも詠い上げてみますか。

梅志「この句は絵葉書をうけと
った側から見るとべきであろう。出
した側では平凡でだらけたものに
なる。牧人さんは佳吟をいくつも
もっている優秀な作家で、浮つて
た作家では決してない。

「連れた女の名は書かず」とい
うのは、旅先の友人からもらつた一
枚の絵ハガキを前にして、その友
人と、場所カンからくる連想がビ
タリとそれらしきものを射止め、
心理的なごうした句になつたよう
な気がする。そうすると、この
句は挿掇調の一寸しゃれた句にな
る。

白星「詠いあげる」と言つた
品格のある作品ではないが、千太
郎氏の言われる常套性はあつても
、梅志氏の評のように、ちょ
ピリしゃれた平凡の句です。

千太郎「不用意に「詠いあげ
る」と言つたが白星さんの指摘通
りです、ところで梅志さんの「う
けとった側から見るとべき」につい
て私も一応はそう解釈もして見ま
したが「名は書かず」の下五はど
うもペンを持つ側のもののように
いままお判じ迷つて居ります。

七面山「やはり千太郎氏のいわ
れるように僕もこの句は「連れ
た」と云う言葉が自主的な言葉に
なりその下に「書かず」となつて
いるのだから、ペンを持つ側に間
違ひないと思う。〃書いていず〃
なら異論も起きないのだが、梅志
氏の言われるように解するにはせ
めて「連れた女の名は見えず」と
言つた風に表現して貰いたかつ
た。

梅志「この句は疑問句の句いが
強く、断定的なことは言えませ
ん。或は、みな評は當つていな
かも知れません。若し牧人さんか

らこの句のいわれを訊けば、われ
われの想像とはまた別な内容のも
のを聴かされるでしょう。世の中
には、いろいろな階級の人がいる
から。

ぶらんこが通天閣を蹴つて
いる

白星「写真のスナップです。通
天閣よりも高く、ぶらんこの子の
足が上つてゐることでしょう。芸
術写真の第一席。

千太郎「類似の句想をよく見か
けます。蹴つた足先が高いという
通念の天体のものでなく人為の通
天閣であつたところに句性がある
ようです。でも二番煎じの感はま
ぬがれません。

七面山「擬人法のさいたるもの
と一応褒めて見たいのですが……
確に千太郎氏のお説のように、い
つかどこかで、見たか聞いたか
たような句にも思えますが、通天
閣を蹴つた瞬間この句が腰くだけ
になりはしまいかとそれが心配で
す。ぶらんこが空中に浮いてい
るのでそれは仕方ないと云えば云
えそうですが、そこに作句に當つて
の句主の作句上の技巧、即ちテク
ニックがあつて良いのではないで
しょうか。一見ガッチリした材料
で組み立てられてゐるようなこの
十七文字の建造物の弱点は一体な
になのでしょう。突っ込みが足り

ないからか、それとも作句経験が
浅いからか……がっちりした支っ
かえ棒が一本欲しい。句の背後
に。

梅志「これは写生句です。しか
も高いところかららしい。通天閣
の周囲にはデパートがいくつがあ
り、その屋上にはコドモの遊戯場
があります。ブランコも無論あつ
て大抵は親が附添つてゐます。無
心にブランコをこいでゐるコドモ
の足が、恰度向い側にある通天閣
を蹴るような動作をくり返してい
る。これが子煩悩であり、川柳熱
心のこの作家の目をとらえたもの
のように思える。作者の感覚はみ
ずみずしい。

白星「確かに類似の句想はある
ようです。ボクは通天閣界わいを
よく知りませんので「通天閣」に
引っかけつて仕舞ひました。可も
なく不可もなしと言う処か。

千太郎「ぶらんこの主をデパー
トの屋上コドモ遊戯場に見つけた
とは、さすが日常通天閣を熟知し
てゐる人ならではの感じ入りまし
た。わたしはそれを探り得なかつ
たので、先の評に句性があるなど
とごまかしてしまひました。

七面山「蹴上げてい〃でなく
蹴つてゐる〃なのだからぶらん
この位置は通天閣と同じ高さか、
少なくともそれに近いものと言
うことは想像出来ませんが、僕の言う

句の弱さは或は

がらんこが入道雲を蹴っている
(蹴上げてい) がらんこが避雷針
を蹴っている(〃) がらんこが時
計台を蹴っている(〃) がらんこ
が富士山頂を蹴っている(〃)
と言った風に俗に言う動く句で
あるかも知れません。

梅志―俗に言う動くというの
は、適確に句が感じを捉らえてい
ない場合に言われることで、この
句の場合はそのことにふれる必
要はない。小さな街の一とコマな
のです、作者と共にその情景に共
感できればそれでよい。

母危篤医者になりたいなと
思う 一 傘
白星―母の危篤に「なりたいな」
は少し悠長過ぎはしませんか。
千太郎―危篤の母の前にやきも
きしている切実感がつい口をつい
て出たものとしたら、「医者であ
ったらな」であろうと思う、白星
さんと同じように何かずれを感じ
ます。

七面山―悲劇感、切実感と言っ
たようなものがそくそくとして胸
に迫って来ないのは一体どうした
ことだろう。体験句、実感句では
なく作り出された想像句であるの
だろうか。それとも、まだ日々た
る叙法のせいなのだろうか。一格
調の整った映画のシーンを思い出

させますが、しかし、危篤の母の
枕辺に居並ぶ人々の瞳に涙を見出
すことは出来ません。死をおもわ
すしめつぽさもなく、ただひから
びた一枚の絵を見ているような感
じを抱きます。
〃なりたいなは確にこの際悠
長すぎます。もし僕がこんな破目
に出会ったら、一体どうだろう。
〃母危篤僕が医者ならなと思ひ〃
と詠うだろうか。

梅志―これも電報を手にした場
合と解釈すべきでしょう。或は途
中の汽車中か？ 枕頭に座してい
る場合は、身辺雑事に追われそ
んな悠長なことはあり得ないよう
に思う。「母危篤」は「ハハキト
ク」とすべきて、作者はまだ初心
者でこの辺の用意が足りません。

問題なのは「医者になりたいな
と思う」で、内容は「医者であり
たい」とか「医者であつたら」で
あつても、願望というものは自由
であつて、このまま医者になつて
行きたい！という表現をとること
も無理ではない。この作者の「医
者になりたい」は、勉強してこれ
から医者になるのではなくて、一
瞬にして医者になりたい。のだろ
う。初心者には応々にして教えら
れるところが多から、私は敢て
原句のまま味わいを残したい。

白星―梅志氏の仰るように
「ハハキトク」として勿論「一瞬
にして医者になりたい」わけです
が、表現が悠長過ぎます。胸に迫
つてこないのは体験句、実感句で
ないからではなく梅志氏の言われ
る初心者の叙法の拙劣さからでし
ょう。原句の意をそのまま生かし
て、
―「ハハキトク」おのれが医者
でなきを焦れに似た処で、「白
星よ汝もまた」と大方の一笑を買
うでしょう。

千太郎―母危篤は病氣加養中病
勢の急変に、医師を待つ間の作者
の焦燥感がこの句をなしたものと
思われます。従つて危篤というの
は枕頭者の判断でそう決めたとい
うのは私の独断でしょうか。

七面山―千太郎氏の説に全面的
に賛成です。電報を手にした場合
などはこれは曲解であつてそう
は決して受け取れません。いずれ
にせよ句意がこのように二様に解
されるところにもこの句の欠点が
あると言わなくてはなりません。
車中と枕頭では距離感においても
大きなひらきがあります。

がこれはこの句を大人の世界の
出来ごととして見るから原句に対
して色々欲も出、注文も出るの
であつて、これを子供の世界にも
つて来て觀賞してみてもどうでし
ょう。

―ママ危篤医者になりたいなと
思う―幼い子供の世界の出来ごと
なら、切実感も、悲壯感も、涙も
そんなには必要がないので
はないでしょうか。
梅志―初心者の句は、二た通り
にも三通りにもとれる場合が多い
もので、とくに句が素材である場
合この傾向がよい。その場合選
者は三省してその内の一つになる
ほどと思ふふしのもがあれば入
選句とすることが出来る。だから
選者はより広い常識がいる訳で、
またそうしなければ川柳は育たな
いように思う。この句の発見は
「医者になりたいなと思う」とい
う幼稚な表現から、願望は瞬間に
その不可能なものを可能にする。
ということを教えられたことで、
これは大人であつてもコドモであ
つても変りはない。

原稿の法律
―これから原稿を
書く人のために―
まず原稿用紙を使うこと、これ
は鉄則です。ムヤミに行を変え
るのはどうかとおもうが、おわりま
でベタ書きは禁物です。別行ごと
にコマ下けて書くことや、句読
点を一字に数えることは誰でも知
っている。
書き損じの場合は、消した横か
ら書くとき数の計算がやりやす

い。加筆するのに小さい字で二百
字以上も用紙の余白に書くことは
編集者や印刷所泣かせです。この
場合は別の原稿用紙に「何枚目の
何行にはいる」と朱筆すること
です。一枚ごとにノンプルをうつこ
とはいふまでもない。
達筆な草書や行書よりはヘタで
も楷書の方が印刷所にもよろこ
ばれる。文字はマスいっぱい大き
く書くことです。カナも漢字も
同じ大きさに書きます。
原稿を二つ折りにして本のよう
に綴じるよりは、書いたそのまま
の右肩をコヨリなどでとじること
が常識とされていきます。
×××で、と「で」の多い文章
は歯切れがわるく損をするこ
が多い。ある雑誌の編集をして
いる友人は「で」の多い原稿は
ロクに読まずにボツにしています。

(F)





みち

(二)

戸田古方

矢作川の人足がいつももらい湯をする礼にはこんでくれたという小石、中石が、味噌の仕込樽の上に重しとしてピラミッド型に積み上げていました。暑いさ中、この味噌蔵で出された冷した緑茶の味は忘れられませんでした。

ダムは発電用の外に多目的に利用されています。濃美平野にまいりますと、用水ということばによくぶつかります。木曾、長良、揖斐はこの平野を流れる三つの大きな川ですが、水の問題はなかなかむづかしくて、多すぎても少なすぎてもこまります。桑名で七里の渡をみました、前に掛斐川を広々とみわたせる、広重の版画のおもかげをのこしてあります。

じやまにならないのこのこ
っていた名勝

海城ゼロ・メートル、堤にかこまれて、輪中をつくりやうと生きた人々の土地です。水が多すぎるのです。かと思ふと、川はあつて

も湧れ川になりがちであり頼りにならない知多半島やそのつけねの丘陵、安城を中心とするあたりは、かつて「狐とおいはぎ」しかない土地でした。天保のころ都築なにがしなる人が私財を投じて用水を作ろうとして、失敗し、明治になって完成した明治用水の土地です、そして今では、日本のデ

ンマークといわれるような農業地帯になっていきます。それにくらべると、知多半島を縦に貫いている今度出来た愛知用水は、世界銀行から借款までして近く完成しました。木曾川の上流、御嶽の麓に作られたダムで一応、水を確保し、木曾川、美濃太田の少し上流、兼山の用水取入口もみて来ました。地図をみますと大小無数の用水がこの平野を流れております。用水も亦、人間のこしらえた水のみちなのであります。

枇杷島の青物市のにぎわいも、名物守口大根もこうした努力の上で生れたものでした。守口大根というのは大阪の東郊守口の原産な

のですが、世の大根とは異り、すんなり細りしております。ガイド嬢が上手にその由来を説明してくれました。

ガイドにまちがってるとい
いそびれ

中京名古屋は藩主が幕府の叱りもかまわずまちの発展のため芸能を奨励したことで有名です。そのため今まで芸どころになっていますが、町の気風ものんびりさせています。農業の濃美平野の中心であったことや、この度の復興のときに思い切つてみちを広くしたことにも一因があります。

こんどの旅行で鰻と鱒の養殖場をみせてもらいましたが、養殖とは農業的手法をとり入れた漁業だということがわかりました。漁業というのは魚のいるところをみつけて、獲る。いわばあなたまかせから一歩も出ることができないものでした。近ごろ瀬戸内海はじめ近海漁業はあまりふるわなくなりまして、「獲る」ということより

「養」ったり「培」ったりするようになりまして。農業の田畑があるように、漁業にも田畑が考えられたわけですね。志摩の真珠、広島のカキは昔から有名ですが、海苔だとか、香川県の湾全体を養魚場にして話もきいています。

浜名湖はもと天然うなぎの特産地でありましたが、とれすぎて、水田にかこつたのがはじまりだそうですね。しかし、多くの養殖が卵から計画的にことをするのと異り、人間は鰻の卵をかえすすべを知らないのです。鰻の旅は不思議な旅です。秋の下りは太平洋を数千里の沖へ出てゆくらしく、その沖で生むらしいのです。その場所

は誰もまだ知りません。とにかく、春になると稚魚、シラス鰻が必ず浜名湖へもどってくるだけは事実。養殖はそこからはじまります。

どん食のうなぎうなぎの生
きるみち

体重はどのものをたべるのも、下り鰻がその目的を充分はたすためらしい。

醒ヶ井で養鱒場をみました。明治一三年の創設というからずいぶん古いもので、日本最初の最大の施設をはこぶ養鱒場です。

養鱒場では餌をとり合う見世物は時間が悪く見られませんが、醒ヶ井ではたんのうすくらしい餌にどうしたのがたがみられました。鱒もなかなかの大食で、犬がはうりなげた餌を空中で

うけとめるように、水中でうけとめて、沈むのをまったりしません。したがって、小石をなげても鰻のみにしてしまうので、そのため病気になるたり、死んだりするのがあるそうですね。

琵琶湖の鮎は稚魚より大きくならないんだそうですが、琵琶湖ではその鮎を各地に送り出して、鮎のよく育ちそうな川々へ放流してあります。旅の最後の夜、木曾川で犬山の鰻飼見物をしました。もし木曾川にも放流されているとするなら、鰻飼も魚類の養殖と無関係ではなさそうですね。

鰻匠の話によると鰻の食欲が鰻飼には大切なことだそうです。餌のあたえ具合はむづかしいのだそうですね、もっと修練を要するのは鰻の首にまきつける紐の締め加減です。何しろ二〇〇、八〇〇グラムはとも、その首のふくろに魚を入れられるのですが、どれもこれもどのどにかえては、いくら鰻でも水にもぐって魚をとろうとはしないのです。たまた小魚の少々は胃の方へ流れこむようにしておかなければならないのだそうですね。

そうしなければ水にもぐら
ぬ鰻飼の鰻

人間には人間の、動物には動物の考えがあります。たべることで外に大いに工夫するのは人間だけかもしれない。いわゆる人工なるものは、みちにもちゃんとみられるました。昔は昔ながら、今は今

としてのたらきをしているようです。五十三次の時代を見てやろ
うなんか、そもそも無理であった
のかもしれない。
ここまでですんだ人間の知恵の
あとを、みちを中心にとくりり
せてもらえたことはうれしいこと
でした。歩けないみちをあるいて
みようと思わない方がよいかもし
れませんが、旅の半日、奥三河の仏
法僧の鳴声のきこえるという風来
寺山へのほりました、片道わずか
四キロしかないのですがふうふう

と、ふらふらになったことも、思
い知ったかと私に駄目おしてく
れて有意義だったと思いました。
昔の大名と今のルンペンとどっち
が幸せであったかは、さわかりな
がら永遠の課題なんでしょう。
(一九六一・九・四)

續・川柳料理暦 (六)



ほんもののやきとり

ほんものの焼きとりの材料、一
番うまいのはシャモ、これは千葉
茨木、宮崎などの産で、生後六カ
月止りのものが一番うまい、オス
メス共によい、その他ロード、ミ
ノルカなどもよく季節のものとし
ては、小鳥類、雀うずら、しぎ、
つぐみ、小鴨、山鳥などがある。
さてやきとり「通」になるには、
鳥全体を食べることである、串に
は、①きも、②笹身、③もも、④
手羽の骨つき(手の羽で肉と一緒に
に骨のついているもの)⑤皮身、
の五種類がある。これを一通り食

これは研究旅行の印象記にすぎ
ません、旅行を通して得た私に
身近なものだけをあつめてみま
した。別に研究報告は作ってみ
たいと思っています。

水谷竹荘

べられるように註文すれば鳥全た
いをたべたことになる、さらに同
じもでも柔いものと、固いもの
とあるし、又、ねぎの笹身巻きと
か、松茸入りとか鳥の引肉を丸め
たボール焼きなど乙なものもある
から、通になるには一応たべてお
くべきだろう。たべ方は、タレを
つけて食べるのだが材料が新鮮な
らば、塩味で食べるのがもっとも
うまい。

ニコヨンの天国屋台で飲み
つづれ 一 鶴
一杯の酒が浮気へ踏み切ら
せ 葵 丘

珍味あれこれ

このわたしはあるかと客にみ
くびられ 松 風
日本料理の突き出しの中で、こ
のわたしは、珍味であり、値も高
い。一流の料亭ならこのわたの中
へうすらの卵も入れて、客に出す
のである。このわたしは愛知県の知
多半島のものが最上であるが、量
が少い、ついで三重、五島方面、
瀬戸内海産、次が能登半島や伊勢
湾、東北のものがよい。

なまこの腸をこして乾して塩漬
にしたもので、そのこし方がむつ
かしい。こし過ぎると黒くなり、
味もまずくなる。腸は長いから箸
でひっかけ乾燥させる。そのた
めに自然下の方が三角形に細くな
る。一枚二百円位する。

海月と書いてくらげと読んでい
る。くらげの浮遊している有様
が、海の中に月が映っているよう
に見えるから、こんな字がついた
のであろう。くらげでも上海くら
げという大きなものがある。産地
は、東支那海、黄海、朝鮮海峡の
辺である。豊一枚ぐらひの大きき
で塩で漬り込んであるから、先ず
塩を抜いて表面の皮をはぎとる、
これを千切りにして、酢のものの
場合は、そのまま酢にして、花が
つおをかけて突出しにする。又こ
まあえにするときには、胡瓜、椎
茸、(秋は松茸)がよい。いりた

てのこまであえて味をつける。酒
の肴として、最も適した珍味の
つ。
飲んだ酒勘定したら蔵が建
ち 文 福
ほめられて同じ料理がつい
続き 雅 夫
料理屋の格で仲居は口をき
き 千 尋
からすみ
昔の唐(中国)の炭に形が似て
いるというので、この名がよはれ
るようになったといわれる。ボラ
の卵を両側からガラスで圧縮して
陽かけ乾しにして造るのである。
本場はやはり長崎の五島列島近
海であるが、近頃は、紀州や土佐
辺のものも出て来ている。赤味を
帯びたベッコウ色がよく、黒色は
味が落ちる。珍味中のホルモンと
して有名。

晩酌にからすみがあるいい
身分 竹 荘
酒 盗
鯉の塩からのことであるが、こ
れで酒を飲むといくらでも飲める
というので、こんな名をつけたも
のだから。

鮭の卵をはぐして塩味にする、
日魯製品が一等、技術は秘中の秘
になっている。料理には柚子釜に
入れて、味噌を一寸入れてだす。
鮎のうるか
うるかとは塩からのことで、鮎
の腸、まご白子、きりこみの四種
類がある。鮎漁が終る頃から始ま
り、九月頃が最盛期で、まごは山

吹色がよく、晒し水の良香により
出来、不出来がある。腸うるかは
苦いばかりで通でない親しめな
い、素人には切り込みうるかとい
って身も腸も一緒に切り込むので
ある。産地としては、岐阜、四国
九州が通っている。
鮎によく似た日本で嫌にな
り 圭 井 堂
串カツで酔う人生に嘘がな
し 牧 人
呑んですぐ寝たのが女の気
にいらす 六 花
請求書飲んだ覚えは二三本
多 久 志
突出しの辻うらにたりにた
り読み 幽 谷
まだまだ珍味として通る料理も
色々あるが、これ位にしておく。
川柳も料理に関連して、そのもの
の味をはめるだけではなく、人生
と食物、人情を読み込んだ風流味
のある粋な句を選んでくれたつも
りである。
(つづく)

本

福壽司

心斎橋筋大丸前
電話 三三四四番



佐用姫

富士野鞍馬

宣化天皇の二年（五三七）十月、今の朝鮮の南部の新羅（しらぎ）が任那（みまな）を侵略したので、任那を救うために、わが国の軍は進められた。その遠征軍の統帥が、大伴狭手彦（さでひこ）であった。

狭手彦は、肥前の松浦潟から船出したが、その愛妾佐用姫は、丘へ上って、その船を見送り、別れを惜しんで、領布（ひれ）を振って泣いたが、悲しみのあまり、ついに立ったままそこで石に化してしまった。という伝説は、奈良朝時代に、「万葉集」にも

遠つ人松浦佐用媛云恋に

領布ふりしより負える山の名と、山上憶良に詠まれている。

領布（ひれ）というのは、一種のシヨールで、今ならネ

ツカチーフというところであろう。別説には、佐用姫は遊女であり、別れを悲しみ、形見の鏡を抱いて入水した。となっていて、これが謡曲「佐用姫」に作られ、その別名を「松浦鏡」ともいう。それで「鏡山」という山名もそれくらいわれたのか、「鏡の宮」「松浦明神」と祀られてもある。またこの山をヒレフリ山と呼び、佐用姫の化石を「望夫石」という。

川柳では、化石説をとり、おもしろく詠んでいる。

鳥ならば飛んで行きたき松浦瀧（タル一一九）

真実さ石になるまで伸び上り（ハ六二）

早く帰りたいひひ石になり（拾 四）

手で招くうちに足から石になり（タル八一）

振っていた手がヒレになり石に成り（ハ九七）

彦様のうといふうちに足は石（ハ一一八）

わが夫のふと招くうちしヤつきばり（ハ一一九）

彦様アわが夫のウと石になり（ハ一四）

早う戻って下さんせと石になり（ハ六八）

もう沖に帆影も見えず石に成り（ハ一四八）

と、ヒレを振りふり石に化してゆく様を詠んでいる。

石と木になって別る松浦瀧（タル一三六）

松浦瀧渡唐がかかあ石になり（ハ六五）

と、狭手彦とともに詠まれたさよ姫の涙はカチリカチリ落ち（タル一四五）

松浦瀧涙はみんな砂利になり（拾 五）

佐用姫の涙こぼれて砂利となり（タル八四）

は、その涙も石になったであろうと洒落ている。

真女でも石になるとはわるがたい（拾 五）

佐用姫はあきらめない女なり（タル九）

佐用姫は生れ落ちから石あたま（ハ一四三）

なんぼ留守でも堅すぎるは佐用姫（万天六）

周男をもたぬ女房は石になり（万安四）

旅の留守堅い女は石になり（タル三九）

堅い名を末世に残す望夫石（ハ五九）

川柳家は、石にならなくてもよきそやなもの、と作っている。堅すぎるというのである。

そのまま石碑もいらぬ松浦瀧（タル一四九）

墓と亡者と兼帯の松浦瀧（ハ一一五）

なるほど望夫石で、墓石も要らないことにもなる。

任那遠征のことを書いてある「日本書記」にも、狭手彦がいつ帰ったかは明記してないが、おそらく翌年は帰朝したのであろう。

とは知らず狭手彦帰陣さし急ぎ（タル一五九）

奥様はこのお姿と石へ指（ハ二二四）

帰朝してみれば女房は石仏（万天二）

狭手彦の帰朝女房に昔が生え（タル九四・一〇六）

狭手彦落涙石にまでならずとも（ハ一五二）

この一句は、別説の、鏡を抱いて入水したので詠んだものではなからうか。

石になるうちに娘は金になり（万安六）

わたしなら石より金と女房しやれ（タル一三六）

真実は女房石より金になり（ハ一三二）

当世なら、石になるより金

狭手彦將軍は、帰朝してきぞ驚き悲しんだことである。

巖と成って昔の蒸す松浦瀧（タル一五三）

「君が代」の歌の文句を取って詠まれている。

松浦瀧堅い女の鏡なり（タル五四）

味の七-コ

モダン 川柳

心斎橋大丸北の辻東へ

御門

TEL ☎ 6684

御集会には階上御利用下さい

になる。と川柳はうがっていい。

残りては貞婦妖婦も同じ石

(タル五六)

けだものと女で石が二つ出来

(拾五)

この妖婦、けだものは、狐の玉藻の前で、

名高い三石芋狐松浦湯

(タル九三)

の「芋」は、弘法大師が芋を乞われたが、石だといって与えなかつたので、その村の芋は石になってしまった。という伝説である。

また文字のこと

不二田一三夫

—— あつた。とするか、

—— ある。とするか、どちらにすればよいか、と迷うことがたびたびある。こんなことでどうかすると三十分も考える。

これしきの判断のつかない自分になさげなくなつて、本職をすててまでこの道へふみこんだことを早やまつたと後悔もした。

ある文芸講演会で、

—— あつた。と書くか、ある。とするか。二時間も三時間も考え抜く場合もある。

と、一流作家が述べていた。ボクはこの講演を聞いてまったく救われた気持ちだつた。

文章のような長いものでもこの苦しみがあつたのだから、わずかに七音の川柳だ、一字一句に苦しみがあつてあたりまえだとおもう。

このようなあとへ、次ぎの二句を拝借することは、作者に対してまことに迷惑のこととおもう

が、ともに勉強する意味でおゆるし願ひたいのです。

九月句会の兼題「座興」に、

社長の隠し芸妓徳利おき

水京

という句が入選している。川柳人なら、

社長の隠し芸 妓(おんな)

徳利おき

と読んでくれるが(おそらく選者も二度ぐらいは読みなおされたのではないか)一般の人が読めば、

社長の隠し 芸妓——と一度は読みつまるのではないか。問題は芸と妓であるが、おんなも芸妓も三音であるから、どちらを使つてもよかつたが、隠し芸と芸妓の芸が二つならぶところに作者は困られたのであろう。

十月号の一路集「留守」に、

蠅叩く他用のない妻の留守

弘 村

この句も題が「留守」だから、

蠅叩く他用——

と読まれる危険性があるようにおもふ。ここでは、

蠅叩くはか用のない——としたほうが、誤読されずにすむのではないか。

母の愛情

今西生薑

須崎豆秋の奥さんへの遺書が発表された時は皆さんが眼頭をあつくされたのは未だ昨日のことのように思う。豆秋さんでなければあのような遺書は書けないと云う感慨があつたからである。然しこの場合は奥さんが対象であつたが、一般に文芸や芸術をやる者の母親の場合では大体それを毛嫌いし、又は好きだから仕方がないとあきらめていたのが普通の状態ではなからうか。たまたま柳都川柳社から同社の同人だつた故鬼原光彦氏の遺句集を戴いた。同氏十三回忌の再版遺句集で約二百句選句されている。氏は柳都川柳発刊直後同人となり昭和二十四年二十七才の若さで夭折されている。主幹大野風柳氏とも同人でありながら一回も面接して見られない。作品中より数句拾つて見る。

(雲は天才) 啄木を想ひ病む

書見器のややさみしさを火

蛾の打つ

ねぎの香の指来てシツプか

えてくれ

学さびし灯に通信の恩師恋

う

闘病の気魄病衣のつぎをあ

て

看病へ階段いつもかけてく

る

病室へ秋風蛇行して入り

良い風呂を頼に光らし帰り

くる

やりくりの思案へ茶碗割れ

る音

処がこの遺句集のあとがきに母親のくりごとが載せられている。

誠に大野風柳主幹の述べていられる通り、作家としての子を思う母の愛情のにじみ出た名文と思つたので、ここにその全文を紹介した訳である。

○

義一お前の魂は何処に居る。母はお前の死を数年前に医者に言い渡され斗病も十年続けばなおり得るものと十年経つ事待って居たのに駄目と聞かされた、そんな事はないと心ですねても誰もとりあわない。病むお前にこの気持を見せたくない。姿にも出し得ず、つられればつらい程表面は強く強く生きて来た。

お前が母の真の心をみやぶつてあわれな母よと想ひ、弱い身の心の重しとなつては可哀想と虚勢を張り通し、死後四十九日があいても人様に涙も見せずがんばつて来

たが、死後一カ年間の中にはほんとうの私の気持が口にも姿にも出て来る。弱くなった心身が仏前に五分と居られぬ、お墓も参拝するのも苦しい。心静めてお前を想う時は悲しきの慟哭が私の肉体をゆすぶつて幾日も頭があがらない。



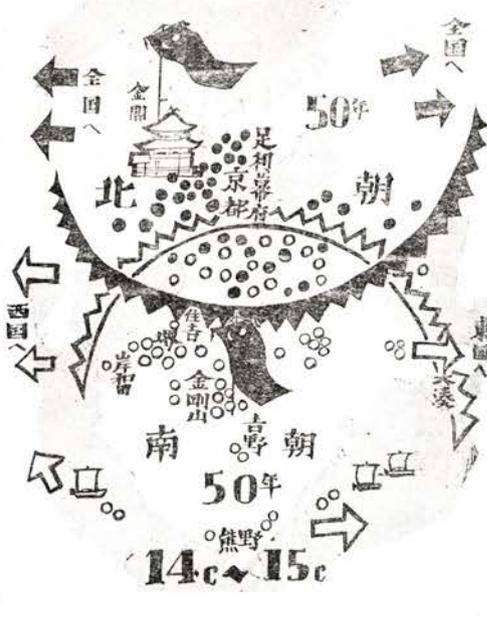
絵と川柳で表現する歴史

(第17回)

戸田古方

(Ⅲ) 南北朝

建武中興が失敗しましてから五十年、近畿地方を中心にして、天皇を中心とする公家



と武士とは共同の敵鎌倉幕府が滅んでから、根本的な考え方のちがいが対立しました。同じく源氏の出である足利・新田両氏は武士のかしら

れざりますと、後醍醐天皇は吉野に入ってしまった。そして南朝となるのです。尊氏は京都にあって逆賊、朝敵の名をおそれ、大覚寺統の後醍

になろうと競争しましたが、いち早く行動にうつった足利尊氏が後醍醐天皇と衝突しました。新田は後醍醐天皇の味方にならざるを得ませんでした。その新田が力量及ばず敗

りがつきます。南北の合一が出来、一応のケリがつかます。

醍醐天皇と対立の立場にある持明院統の方を天皇とします。これが北朝でした。北朝必ずしも勝利の連続でなく、全国武士は自分中心の考え方から得になる方に、北朝について、南朝についてたりするややこしいのもたくさんでてきました。というのは吉野も山の中といながら、紀伊半島の三方の海への出口を確保しているかぎり、東に西に全国へ呼びかけて味方をつくることのできたからです。その大黒柱のようになったのが北畠親房ですが、楠一族の正儀などもなかなかの策士でした。兄であり、正成の長男の正行が純情一路、咲りの花を散らしたのとはよい対称でした。北朝はやがて京都室町に幕府をひらきまして、五十余年後、南北の合一が出来、一応のケリがつかます。

醍醐天皇と対立の立場にある持明院統の方を天皇とします。これが北朝でした。北朝必ずしも勝利の連続でなく、全国武士は自分中心の考え方から得になる方に、北朝について、南朝についてたりするややこしいのもたくさんでてきました。というのは吉野も山の中といながら、紀伊半島の三方の海への出口を確保しているかぎり、東に西に全国へ呼びかけて味方をつくることのできたからです。その大黒柱のようになったのが北畠親房ですが、楠一族の正儀などもなかなかの策士でした。兄であり、正成の長男の正行が純情一路、咲りの花を散らしたのとはよい対称でした。北朝はやがて京都室町に幕府をひらきまして、五十余年後、南北の合一が出来、一応のケリがつかます。

生命をとりとめる事だけは駄目で

母は生きたくない身を鞭うって
お前の「死は必常」と言う心と同じく生き苦しく生きています。
義一よお前の霊がなせ来ない、
繰返して見てハッと気がつく、霊
がかえっても肉体が無いものを。
あのやせた肉体でも焼かねば良かったと想う、これが真の母である。
女にかえった私のほんとうの愚痴である。お前のだぞみなれば

だが義一よ母は如何なる事であるともお前の清い魂がみまもって居るものと信じ、お前の気の毒な母、あさましい母と思われぬ様子供に死なれた母のたよりない身がこの身が生きるにはあまりにもつらい御時世ではあるが、つらい事があっても迷うことがあっても行く道をあやまるまいと思う、時折はくすれ易い心をお前が生前、織田信長の「死は必常」と私に聞かせたが、それを言うお前の心は如何に死をつらくあきらめたか、今にして想いやられる、お前が生れて十カ月目から二十七才まで女手一つで育て自分の身は如何なる泥沼にあえくともお前を立派に育て上げ、お前から母の意志をついで貰いたかったものを先立たれ半狂乱かは何かなが自殺せぬことを賞めてくれ。

なおして思いもかけぬ無一物のまま転業し、なれぬ業におろおろしている。

文面からこれは鬼原光彦氏の一周忌にかかれたものと考えられる

あったが、後は何にてもお前のぞみ通りにみたくして来たと思う。最後の願いもこの遺句集を一日一日のばし四十九日までにと想い百カ日までにと想い一周忌にはぜひにと想い、のびのびになったことは毎日かかかねばならぬ間にあわせねばならぬと心の重しとなって苦しかったが、つとめてお前を想うまいとする心と、書けば想い出して涙に目はかすむ、とうとう想うままを自分で書き得ず人にたのんで私の話する事を筆記して貰った。おそくなつたことをわびて義明倫居士の霊よ安らかなれと筆をおく。

(コ) 株式会社 丸越

電氣器具	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目 60
瓦斯器具	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目 3957・3958
雑貨	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目 4985・4986
洋装	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目 2110 9514
靴	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目 104
家庭用品	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目 7459
婦人服	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目 1445
紳士服	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目 3587・1600
アベノ吉野島生	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目 2局
住平都蒲堺	大阪 阿倍野区 阿倍野 三丁目

月賦 のデパート

良い安い買よい 十九月払

● 何もかも忘れて咲いている

● この辺でよいなと思う花の御所

(32) 室町時代

共同の敵のなくなったとたんに公家と武家の争いが表面にあらわれましたが、それと同じことが、室町時代にもいえることでした。室町時代は下剋上の時代でありました。下剋上とは上にたつものの権力が弱くなって順々に下ほど権力の強くなった時代であります。一番上の將軍は足利氏ですが、相当の強さぐらひでは共同の敵のなくなった時代に安心して我が儘勝手をいう武士たちを統制してゆくのはよほどむづかしかつたようです。少くとも、共同の敵を警戒しながら団結した鎌倉の時代とおもむきを異にしているのではありません。足利氏も將軍は江戸の徳川氏と同じく十五代つづいてはいるのですが、その將軍の名を一人ずつたれもがいえないほど関心のうすいものでした。

武士の権力のあまり強くない近畿地方では、その地方の武士を追払って農民や町人だけの社会が出来もしました。やがてあらわれる織田信長にぶつぷがされるまで少くとも十年、十五年とつづいたものでした。

農民や町人が生産や商業の上で実力をもつようになっただけでなく、最後には政治に干渉できるほどの力をもってきたのでした。

徳政

百姓一揆

下剋上 (封建混乱) 室町時代



応仁乱

たものでした。京都の戦にしがたがっている間に国もどが怪しくなつてみんな解散したのでしたが、その後は有名な武田、上杉、毛利や伊達が中央

に出ようとして、血みどろの争をくりかえす戦国時代となるのです。しかし一部の歴史家は、やぶれたりといはいえ日本民主主義の萌えかけた時代ともいっています。

● 定紋をめつたやたらにつけたり

● しあわせは裕然としてなめられる

● 小競合あとは狂女にたわむれる

現代柳人録

が、このような母の温かい愛情に包まれていた氏が母の立場で書いたと思われる句を残している。入院をさせたが耳に残る咳 この作家は先にも述べた通り、作家としては常に病床にあり不幸ではあったが、このようなあつて母の理解と愛情の中で暮された作家も少いだらう。孤にされしわれに柳人みなぬくし と云う作品が有りながら生前遂に一人の川柳作家とも迷わず他界された作家もめずらしい事と思ふ。

- (一) 姓名 (二) 雅号 (三) 別号
- (四) 現住所 (五) 生年月日 (六) 出生地 (七) 職業 (八) 電話 (九) 自信の句一句 (一〇) 川柳以外の趣味 (一一) 配偶者の有無 (一二) 川柳に手を染めた年月

(91) 鈴木村 諷子

- (一) 鈴木保夫 (二) 村諷子 (三) 鈴木保夫 (四) 鳥取県高郡浜村 (五) 明治39年10月6日 (六) 現住所に同じ (七) 農業 (八) (九) 守銭奴へぶつけてやれる金が欲し (一〇) 短歌・切手蒐集 (一一)

(92) 森下 愛論

- 有 (二二) 昭和二十年八月
- (一) 森下信夫 (二) 愛論 (三) (四) 布施市菱屋西一八三 (五) 大正6年8月28日 (六) 大阪市 (七) クリーニング業 (八) (九) 妻にない魅力求めて街へ出る (一〇) 職型工作 (一一) 有 (二二) 昭和十八年頃

(93) 金井 文秋

- (一) 金井清三郎 (二) 文秋 (三) (四) 大阪市生野区北生野町一丁目二五 (五) 明治44年9月2日 (六) 大阪市南区高津町四番丁三 (七) 書翰商 (八) (九) 立読みの中に止んで益忘れ (十) 今はなし (一一) 有り (一二) 昭和十一年頃

ヒゲそり後に...

●美容衛生剤G11 ●アラントイン ●水溶性ラノリン } 配合

男性 200 アストリゼ

・第十三回・

市民川柳大會

— 名句に薫る川柳王国

・会場 毎日新聞大阪本社講堂・

祭 化 文 民 市 大 阪

マンモス都市大
大阪の文化センタ
ー毎日新聞大阪本
社講堂で、恒例の
大坂市民文化祭第
十三回市民川柳大
会がはなばなしく

開催された。きょう菊花かおる10
月15日。

快晴で各ターミナルは本年最高
の人出だという。しかも諸学校は
秋の運動会である。だが会場の出
足はすこぶる快調で、用意された
椅子が足りず、椅子の追加という
盛況に、会場係りがうれしい悲鳴
をあげる。

昨年はず番傘々々せんば々々川
柳文学々にわが川雉と、四社協力
の市民川柳大会だったが、その吸
収力においては本年のほうがはる

かに盛会だったことは、出席諸氏
のご判断にまつとして川柳文学
社々と川柳雑誌社々の大会委員
諸氏がフアイトと意欲に燃え、今
日の盛況へもってきた努力は見逃
せないであろう。

大阪市民文化祭の市民川柳大会
からず番傘々々せんば々が参加
しなかったことは、まことに遺憾
である。大阪市民文化祭の意義を
再考三省してはしいものである。

しかし、番傘川柳社やせんば川
柳社の柳人が全部この大阪市民文
化祭にそっぽを向いたわけではな
い。なかには親しく出席された人
や、欣然投句されてきた人々のあ
ったことを報告しておく。

選者に京都「平安川柳社」の布
部幸男氏や、神戸の「ふあうすと
川柳社」の三条東洋樹氏にご依頼

したのは、主催である関西短詩文
学連盟からの要請である。

司会は西尾榮氏で、ご存じの美
声にあの巧みなユーモラスな話術
は正に天下一品。会の盛上がりは
司会者にあるといわれるが、司会

は当代随一の榮氏、かててこのよ
うな大会には敏腕を常にふるう氏
の面目躍如たるものがあつて満場
をうならせた。開会の辞の川村好
郎氏も榮氏におとらぬ話術の天才
でこれも定評がある。

大阪市教育委員会からは岸本準
二氏が挨拶に登場され、きょうの
晴れの市民川柳大会を祝福され、
つづいて川柳文学社の堀口塊人氏
が大阪式表現と川柳々と題され
て講演をされた。大阪は川柳セン

ターである。その大阪のコトバが
大阪人が、川柳の水にあつている

という例を、句
やコトバをもつ
てきて、満場を
魅了しつづけら
れた。

席題が二題終
ったところで柳人
奇術家、加藤繁
雄氏がお得意の
古典奇術をひっ

かけての登場である。おはやしの
レコードに乗って、右手の指が器
用に動けば、無から有、有から無
の奇術がつぎつぎに披露される。

兼題は三条東洋樹氏から庶生路
郎主幹までスピーディに進む。な
お本大会は特選、準特選と各一句
あて発表し、欠席した入選者には
賞状および賞品を郵送するという
例年にはない特色もおこまれて
いた。

閉会の辞の永田六龍子（戸奈巳
之介氏欠席）が登場されるころ四
時になっていた。

兼題「めし」庶生路郎選
耐える外無し一心にめしを食う

兼題「御堂筋」市場没食子選
兼題「鼻」三条東洋樹選
兼題「煙」布部幸男選
兼題「ソロバン」武田北人選
兼題「煙」布部幸男選
兼題「鼻」三条東洋樹選

スマートで
着心地良い

大阪市 山川 阿茶
大阪市 北川 春葉
大阪市 加川 大然
大阪市 今西 生蘆



GOLDEN
O.S.K.の
紳士服
各地特約店に有り

御堂筋のいちようそろそろ邪賢が
られ
兼題「ソロバン」武田北人選
負けとけとソロバンの櫛一つとる
ソロバンはないかと社長立って来
る
兼題「煙」布部幸男選
死の灰を軽く煙が受け止める
治ったら来いと煙に励まされ
兼題「鼻」三条東洋樹選

帰国して鼻の低いが馬鹿に見え
大阪府 早川 清生
隆鼻術してから犬がそっぽ向き

神戸市 新葉美野路
席題「団地」大高角風選

団地にも慣れて狭さの良さも知り
宝塚市 谷口 文子
よい話は疲れず団地上下する

大阪市 福井 龍昭
席題「ネオン」若本多志遠
くをに出てネオンの裏で肌洗う

大阪市 三浦 志水
色即是空真昼のネオン塔

大阪市 橋高薫風子

橋高薫風子氏が昨年にひきつづ
き市長賞を獲得されたが、二年連
続というのなかなかむずかしい
ことだとおもう。

石倉旅風氏が二年連続を樹立さ
れたが惜しくも三年連続はならな
かった。

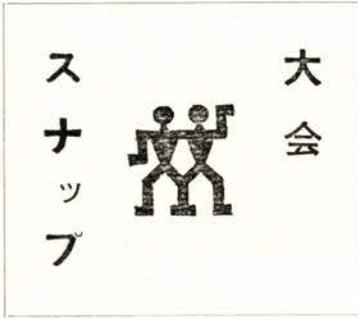
本年の市長賞を握った人々をみ
ると、新人が圧倒的に多かったこ
とも、あすの飛躍が約束されてい
るようで、川柳の前途に明るい希
望をもたらされた。

昨年より盛会だったとはいえ
「番傘川柳社」や「せんば川柳
社」の不参加は残念だった。同じ

大阪市民とともに川柳する同好の
士である。川柳大阪市民がこそっ
て一堂に顔を合わす大阪市民川柳
大会の意義をもう一度考えてみた
い。

閉会後同会場別室で懇親宴が盛
大に催され、句箋もつ手に祝杯が
あがる。ここでは川柳人というよ
り、お互いが大阪市民である。と
もに大阪市の文化をになう善良な
る市民として、和気あいあい、明
々朗々の歓談がつづいたのであ
る。

「川柳文学社」のみなさん、
「川柳雑誌社」のみなさん、
ご苦労さまでした。



路郎先生が兼題「めし」の披露
されているとき、めし粒を指先で
はしく句があった。先生はその句
意を説明するため、指でめし粒を

はしくゼスチュアをされた。その
タイミングといい、演技？とい
い、まことに名優ぶりで会場がド
ツとわく。

先生が披露中にゼスチュアを入
れられたのを初めて拝見したわけ
だが、動きのある披露というもの
もいものだなと思った。

懇親宴もなごやかだった。明朗
な笑いの渦がまくところ、ここは
上方ことばの本陣である。路郎主
幹も演壇というカミシモを脱いで
の朗笑50メガトンをブタれる。

布部幸男氏のこれはまた軽妙な
語が大受けだった。それもその筈
氏は京都の「上方らくこの会」の
顧問をしておられる通人でもある
のだ。

高座の生き字引きといわれ、さ
きごろ引退披露を盛大にされた花
月亭九里丸氏の紹介で、大阪の
「小ばなしさんしょう舎」の同人
となられた布部寸刀(幸男)氏に
は、筆者も川柳のほか、この道
でも一指導ねがっているのでは
ある。

きょうの盛会のかけには、川柳
の母として女流作家から慕われて

いる麻生護乃先生が、大会案内ハ
ガキへいちいちペンをもって呼び
かけられたものである。

会場入口の受付で女流作家の
みなさんにまじって手伝っておら
れる霞乃先生は、まことにエネル
ギッシュで、ヒマができるときか
んにペンを走らせておられた。

山川阿茶さんの句が惜しくも準
特選で市長賞を逸した。
「もうひと息やったのに」
と霞乃先生、ここでは川雑婦人
友の会の会長としてのママぶりを
見せられた。

席題で市長賞を獲得した福井龍
昭氏はまだ川柳二年生だそうであ
る。

「にしり支
部は毎年市長
賞をとります
な」
と西川晃氏
が後藤梅志氏
に胸を張って
おられた。

柳人奇術の
加藤繁雄氏が

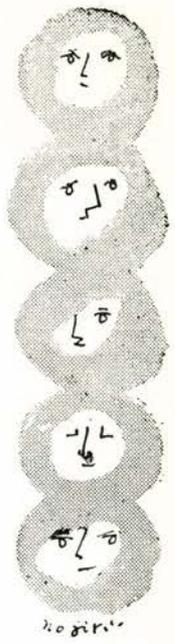
懇親宴の会費を幹事にわたせば、
「この紙幣はホンマもんでっしや
ろな」
と幹事がスカして見る。

「へい、種も仕掛けもないホンマ
ものです」
○ 昨年の場内は、タバコの付むで
セキが出たと云う、ある女流作家
が、

「ことしの人はお行儀がよいの
か、場内に煙りが立ちませんね」
と、うれしそうに云えば、幹事
の一人、
「煙りが出ているのは、兼題の
「煙」だけです」

(下二田一三夫)

もみじは
みのお
嵐山
梅田・みのお間四〇円
梅田・嵐山間一〇〇円
阪急電車



入門講座

研究題「読む」

清水白柳

この研究題の締切り周際に第二
室戸台風がやってきましたので投
句があるかどうかと思つて居りま
したが、沢山の出句がありました
ので安心致しました。そしてみな
様から台風の御見舞を頂き早速御
礼を差上げねばならないと思つて
居たのですが、職業上の関係で台
風以来寸時の暇もなく失礼いたし
ました。この欄をかりましてみな
様に御見舞と、お礼申し上げます。
課題の読むということから第一
にだれしもが思い出すことは子供
と絵本、漫画のことであります。
その中から

1 勉強をしてるふりして漫画
読み H
2 ハイハイの返事はかりで漫
画読む K

3 生返事はかりで漫画読みつ
づけ 千甫
4 こっそりと漫画読んでると
は知らず 雄水
1の句はありのままのことを言
つてしまったので、それだけの句
になって居ります。
2と3は想も表現も同じよう
はありますが3の句の生返事とい
う語がよかったです。4
の句もこっそり読んでいるだけ
なく、読んでいる処を見つけれ
たとか何とも少し想をひろげ
てはしなかったと思います。
本をよく読むが学校の本で
なし S
教科書は読む気さらさらな
い子供 S
この二句どちらもやや理屈っぽ

いとこがあつて平淡になつてし
まっています。
1 末っ子も絵本さかさに読ん
でいる K
2 さるとかにさかさに読んで
御満悦 M
3 片言で読んでる絵本さか
さり 恵甫
4 鳴き声を真似て絵本を読ん
でやり 美由起
5 読むテンポ一字ずつ狂るう
幼稚園 雄水
1の句の末っ子は幼児と限られ
ていないと思いますので決め手
はなりません、そして末っ子も
もが変だと思ひました。お友達も
であればお友達も絵本さかさに
読んでる々となるわけでありま
す。2の句の下五の御満悦がいけ
ません。幼児に対して満悦という
表現は変に感じられます。3の句
は片言がよかったです。4
の句は着想の上に古さを感じまし
たが、作者としては発見された境
地を詠まれたことでしょうかから取
上げたわけでありませう。5の句の
エーモアは良いと思います。面白
い見つけどころであります。
1 参観日子の読む番へかたず
のむ I
2 参観日名差された子の読む
姿勢 Y

3 大声で読む一年生を楽しみ
に Y
4 大声で読んで勉強もう終り
ます M
5 本一寸読んで宿題もうしま
い 静水
6 ひらかなだけひろうて新聞
読んでる子 M
7 看板に読める字があるラン
ドセル 和三郎
1の句親心を詠んでいます平
凡な表現です。2の句得意そうに
立上るのか、困った風で読む。の
かそれをどちらにでもとれるよう
に表現されているのがいけないと
思います。3の句はどこで読んで
いるのか、だれが楽しみにしてい
るのか句の上からは判りません。
授業参観なれば、それが現われる
ように工夫しなければなりません
。学校の窓越しに聞える一年生
の読む声なればそれが現われるよ
うに考えたいと思います。4の句
は面白いと思ひましたが5の句の
本一寸という点がよかったです。思
いました。この本一寸の中には大声
で読んだのも想像されます。6の
句のひらかなも着想としてはいい
のでありますが新聞読んでる子と
いう処にわざとらしきを感じたの
であります。7の看板に読める字
があつた真実さを佳いと思ひまし

た、ランドセルは古いまわし方で
気になるのであります。仕方がな
いと思います。
達筆をほめるが誰もよう読
まず Y
三四人寄つても読めぬ額の
文字 H
筆蹟を褒めて扇の句が読め
ず Y
水茎の跡美し過ぎ読めず H
亡祖父の草書読めない大学
出 八九寸
古句にこうした着想表現の句が
ありますので五句のうち最後の句
の大学出を風刺しているのが頂け
ると思えるのであります。
1 闘病の読むものもなく聖書
読む Y
2 聖書読むつわりの妻の顔消
く K
3 聖書まで読む気になつた気
の弱さ I
1の句の読むものもなくとい
うのは想像によって作られたので
はないかと思ひます。私自身も闘
病生活をしたことがないので、は
きりしたことは言えませんが、3
の句の気の弱さはあまりにもあり
ふれた語を安易に使つて居られま
すので真意が通じません。2の句
は事実さうであつたかも知れませ



一路集

やせつぼち

清水白柳選

やせつぼち胃の大きさは別らしい 鮎子
 献立へ文句が多いやせつぼち 弘道
 やせつぼちの膝に丸々とした坊や 忠三
 奥さんと同じたべものやのに細り みのる
 やせつぼち眼鏡はこついやつをかけ 宗太郎
 やせつぼちやせる秘訣を娘に問われ 万古
 大手術してから社長やせつぼち 涼髪
 腹巻のずり落ちそうなやせつぼち 山椒坊
 体格が飲む酒でないやせつぼち 光郎
 やせつぼちなまで聞かず腰を上げ 一鶴
 ファッションやした体で着る魅力 啓子
 開山の和尚の姿やせつぼち 蛙木
 やせつぼち一人前の汗をかき 生薑
 やせつぼちの夫荷物を持たされて 美由起
 女強しやせつぼちも産むと言う 八郎
 抱き合えば両手の余るやせつぼち 句急坊

せめてもの優越感をミイラ展 井蛙
 喉間ほどにらみが利かぬやせつぼち 千甫
 着やせつぼちの巡査やたらに笛を吹き 圭井堂
 やせつぼちの徹夜麻雀こたえてず 圭木
 立錫の余地へ割り込むやせつぼち 代仕男
 きょうりもみ好きな父さんやせつぼち 惠二朗
 衛生をあまり言うから肥えられず 旭峯
 声優の声に似合わぬやせつぼち 惠二朗
 やせつぼち歩けば骨が軋みそう 卯之助
 やせつぼち茶漬一番好きと言ひ 雄木
 やせつぼちハダカになつて見直され 静水
 やせつぼちバンドの穴を二つ明け 淀月
 食わせても食わせてもうちの子やせつぼち 藤波
 やせつぼちこの上蛋に蚊に好かれ 九呂平
 尻馬へ乗つてひつこいやせつぼち 宗太郎
 やせつぼちしよせん貴方は平社員 草々
 同じもの食つて末っ子やせつぼち ひろし
 最後まで膳をはなれぬやせつぼち 山椒坊
 やせつぼちの儘母になりまた細り 蜻蛉
 長いすねもて余してるやせつぼち 大八洲
 やせつぼち同土座席にあるゆとり 静水

母の眼にひよるひよるとやせつぼち 万古
 継母の気をもませとるやせつぼち 藤波
 五分詰り着てもきつり前が合ひ 豊年
 ただ一人風邪を引かないやせつぼち 鶴汀
 やせつぼちの写真と葉の効いたのと 八九寸
 やせつぼち多産系の妻を連れ 雄々
 佳
 やせつぼち宿の浴衣を短かく着 代仕男
 やせつぼち薬局並に揃えて居 和三郎
 思う程寝押のきかぬやせつぼち 兼治郎
 どこかしらすかすかしてやせつぼち 尚史
 やせつぼち七人の子が父と呼び 周甫
 人
 やせつぼち寝て居てヒヨいと跨がれる 鶴江
 地
 春夏秋冬和服で通すやせつぼち 南天
 天
 折動をいも取つてるやせつぼち 木魚
 青空
 永松東岸選

青空へ寝巻のまま背伸びする 晃康
 坑道を出れば青空冴えて見え 光福
 青空を吾が物顔のアドバルン 山椒坊
 不快指数知らぬお山の青い空 宗太郎
 青空が見えて市内を遠くすぎ 照児
 青空の女給鞆をひったくり 句急坊
 青空へいつか月出てなおも酌み 八九寸
 青空に老骨ボール投げて見るろ亭
 青空に鞍果を上げた闊草刈り 万古
 青空に株上ろうが下がろうが 圭井堂
 青空に惹かれ京都に途中下車 淀月
 非番日を寝るには惜しい青い空 静水
 青空を思わず仰ぐ良い便り 大八洲
 青空に隣の軒を借つて干し 九呂平
 青空が見えてラインを引き直し 同
 三日目に見えた青空拜んどき だけを
 青空の朝職安のいそがしき 涼髪
 青空に追分て出る港口 定月

品質優良
先カワペン
 TACHIKAWA PEN
 タチカワペン
 タチカワゼム
 タチカワ画紙
 立川ペン先株式会社
 大阪市東区東船場一丁目十二番地

青空へ夜勤の疲れ見せぬ父 鶴汀
 青空へ明日は台風来る予報 雄々
 青空は不快指数を零にする 木魚
 青空に大雨降ったは夢のよう 輝次
 青空のムードをこわすちぎれ雲 祥月
 洗濯をせよといつてる青い空 雪美
 青空の予報も偶にミスとなり 繁太郎
 落葉して青空だけが残る枝 光道
 青空を吸い込む大の字の昼寝 愛鳩
 断水へ一雨欲しい青い空 啓子
 青空を眺めて休日もてあまし 博
 幸福が降って来そうない空 卯之助
 狭き門通れば空の青いこと 恵二朗
 青空の高さも知らず小鳥籠 同
 大声で叫びたいよな青い空 旭峯
 青空へリユックが怪しいハイキルグ 好女
 コンナクシヨコと言いたいよな青い空 十九平
 青空で先生だけがくたびれる 圭木
 死の灰が降るとは見えぬ青い空 古心
 駅伝の次のコースも青い空 生薑
 青空へ落書をする飛行雲 弘道
 しみついたよう青空に黒い雲 兼次郎
 青空がのぞいて主従者皺を伸し 藤波
 退院の日の青空がまぶしすぎ どんたく
 被災地の子は青空を見て 習い 井蛙

青空をボブラに掃かす風の音 和三郎
 空の色あんな着物が着て見たい 周甫
 早く良くなれと病む身に青い空 軸

地
天

家業

高橋操子選

平役人百姓家業を兼任し 洋次
 家業では食えず出稼ぎして暮し 博
 子の夢が家業と別なのにあわて 弘道
 辞めて来い家業に励めと父便り 市郎
 長男に生れ家業に嫁がなし 周甫
 一人前になると家業を子はきらい 草々
 工作で大工とわかる子の動作 山椒坊
 家業継いだけだと成功見てくれず 保夫
 同業の娘を貰う縄のれん 万古
 家業つく次男が馬鹿に見える兄 圭井堂
 大学へやって家業は他人継ぎ 弘村
 現代に合わぬ家業を子に継がし 淀月
 役みんな退いて家業に腰を入れ 静水
 教鞭をとりつつ家業の経を読み 大八洲
 同輩の出世家業に落ち付けず 蜻蛉
 半分は家業と見合わす婿 養子 一峯
 ソバ屋とはいっても屋台引歩き 忠三
 老いの身の家業大事に生きてゆき たけお
 二代目の養子家業をすてたがり 涼髪
 母のいた頃は栄えていた家業 秀峰
 誇り持つる家業を三男まだ嫌い 実男
 大切に家業を守る親譲り 淀月

坊さんの家業は他人の弟子がっぎ 勝子
 お土産の名菓創業三百年 初甫
 家業だけコツコツしてる養子なり 庸佑
 子にだけは継がす氣のない家業なり 鶴汀
 そのかみの家業を語る桶があり 木魚
 税金をごまかす苦勞をする家業 雄々
 評判の息子といわれ家をつぎ 照児
 家業継ぎおやじの偉らさ判つてき 句念坊
 車夫の跡継いで独立タクシー屋 八九寸
 継げ継がぬ家業のことで今日ももめ 兼治郎
 家業柄愛想よい子に仕込まれる ろ亭
 他人の飯食べて家業のよきを知り 藤波
 建直す家業は金と縁を組み 元一
 橋幸夫和服に不自由せぬ家業 一鶴
 ささやかな家業どうなり喰つてゆけ 祥月
 先代より少し発展した家業 雪美
 長男も次男も家業の皺を捨て どんたく
 秘伝許す子もなく家業にしがみつき 光道
 大学を出せば家業に尻を向け 雄声
 後嗣が家業真似てる医者ごっこ 子甫
 家業などどこ吹く風の次男坊 惠甫
 家業手伝う息子に週休持ち出され 美由起
 一人子がのらりくらりと家業つぎ 愛鳩
 傘なおし我れ天職と思えども ひろし
 未亡人のれんを守る割烹着 代仕男
 いい家業ですわと褒めて嫁てくれず 好男
 戦後派の子供で家業まかせかね 啓子
 家運挽回長男あと目つぐ家業 卯之助
 息子から見れば家業のはかきさし 雄木
 趣味の店別に家業を持つている 蛙木
 借金も添えて家業をゆずられる 惠二朗
 息子より養子が家業継いでくれ 旭峯
 オートノの時代で家業が岐路に立ち 十九平

家業とは別に趣味だけついでくれ 圭木
 妻に飽き家業に飽いてパーの隅 孝風
 養子する氣もせず家業水商売 生薑

佳

電化にも遠く家業の炭を焼く 光郎
 代々の家業赤字の儘で継ぎ 南天
 吾が子にはさせようはない職に活き みのる
 文化財にされて家業として立たず 豊年
 末っ子へ継がす家業へ古稀の汗 和三四
 肩書がふえて家業が手に付かず 宗太郎
 絵画きの子センスないのに継ぐと言い 生薑

人

家業継ぐ修業他人の飯を喰い 古心
 家業より余技で名が売れ顔が売れ 惠二朗

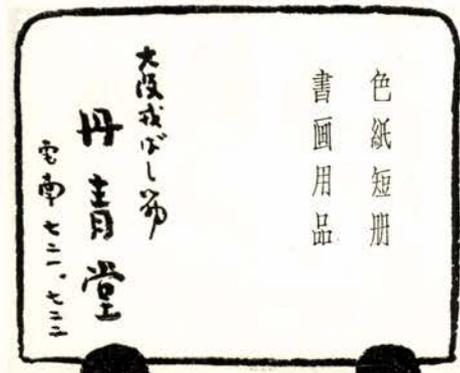
地

天

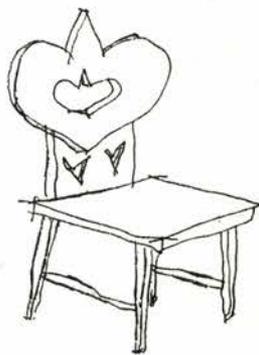
家業とは別な氣で座す花鋏 九呂平

軸

父のない家業へ娘等も氣を合せ



柳界 展望



旬会

▼本社十一月の文化の夕々旬会は七日午後六時から上六南の関西会館(天王寺電話局東隣)三階で開催。文化月の旬会を意義あらしめるよう柳友お誘い合せの上、多数御出席ありたい。▼南区医師会文化部吉林川柳旬会(大阪市)は十月十七日(火)午後七時半から南区三住橋南詰中島小児科診療院楼上で開催。▼南海電鉄川柳旬会(大阪市)は十月十九日(金)午後六時半から難波親和クラブで開催。▼コクヨ川柳会(大阪市)旬会は十月二十日(金)午後五時半から黒田国光堂で開催。▼大阪通信病院旬会は十月二十八日(土)午後二時から五階会議室で開催。▼川雅奈良支部・奈良高校短詩型文学同好会川柳部合同旬会は九月

三十日奈良高校で開催。以上路郎主幹出席。▼川雅岡山支部主催、国鉄岡山地区倶楽部文化部川柳大旬会は十月七日国鉄クラブで開催。▼ひろしま川柳会十月旬会は十六日(月)午後六時から広島駅二階会議室で開催。▼名古屋市第十二回短詩型文学祭は十一月五日午前十一時から鶴舞図書館会議室で、展示会は十月三十日から十一月五日までの七日間同所でそれぞれ開催、詩・短歌・俳句・川柳の四部門入選作品が展覧された。名古屋市の、名古屋市教育委員会、中部日本新聞社、名古屋タイムス社、鶴舞図書館、名古屋短詩型文学連盟共催。▼広島市文化祭短詩型文学大会川柳の部会は十一月十二日(日)午後一時から、広島市上柳町安芸路荘で開催。兼願、ダン

ブカー・不快指数・おじいさん・核実験、各題三句以内。投句は縦十八欄、横三欄の句箋に明記の上十一日までに広島市教育委員会社会教育課文化係宛。▼川雅八代支部では十一月十二日、午前十時から八代文化祭川柳大会を横手会館で開催、兼願は祝く・裏・秘・地獄・夫婦、八代市大手町支部宛。▼富田林市民文化祭協賛川柳大会は十一月四日(土)午後一時から本社麻生路郎主幹(講演並びに選)を迎えて近鉄富田林駅西口下車、西方寺で開催。▼豊中市民文化祭参加第四回川柳大会は十一月十二日(日)正午から中央公民館講堂で開催。兼願、丘・親子・銀・夫婦・葉。投句はハガキ型用紙に三句ずつ明記、投句料五〇円封入の上十一月五日までに豊中市岡町、豊中央公民館内文化祭川柳大会係宛。▼第十二回西宮市民川柳大会は十月二十九日(日)正午から西宮市教育文化会館で開催。▼尼崎市民川柳大会は十一月十九日市文化会館で開催。▼川柳文化祭第二十四回京浜大会は十一月三日午前十一時から新宿区役所文化会館で開催。▼秋田川柳大会は十一月十二日(日)午前十時から

労働会館で開催。▼第十二回勤労者文化祭川柳大会は十月二十八日(土)午後六時から京都寺町天性寺で開催。▼第九回菊まつり新津市民川柳大会は十一月四日(土)午後六時から新津市駅前秋葉荘広間で開催。▼第十回東北川柳大会は十月十五日(日)午前十時から仙台市東二河北新報社で開催。▼時の川柳第六回誌上旬会兼願屋根・強気・同情・終り・口論、各題三句をハガキ型用紙に明記三十円封入の上、十一月七日までに神戸市兵庫区神田町七九時の川柳同好会本部誌上旬会係宛。

消息

▼故尾崎方正医博の一周忌法要は十月十一日午後二時半から南河内郡美原町今井法雲寺で仏事が営まれ、本社から麻生路郎主幹、大阪通信病院から若林章右副院長、中田ハナ子医博等が焼香された。▼若本多久志氏(西宮市)は十月七日玉造温泉に清遊、翌八日は出張大社に参詣傍々、尼緑之助氏を訪問する予定とのこと。▼田垣方大氏(倉敷市)は昨年の十月から担当部署が変り新しい仕事の勉強で川柳をギセイにしていたが本月から更に責任が重くなったとのこと。▼上田翠光氏(奈良県)は福原市の県立医大病院で療養中であるが、病状は快足調で快方に向い化学療法の手放れも近いとのこと、速かな御快癒をお祈りする。▼西尾菜氏(八尾市)は八尾ライオンズクラブ集会の席上で「川柳とところどころ」と題して講演された。▼渡辺睦童氏(愛媛県)は町民運動会に余り働らきすぎて臥床以来行事連続で手帖の行事欄に空白がないとのこと自重自愛を祈る。▼花月亭九里丸氏(大阪市)は上方演芸界の名物男として、エントラツ、アチャコの名とともに知られた漫談家ですが、高血圧のためながい高座生活から去られることになり、このほど中座で引退興行を催された。毎月「近作柳燈」へ九里丸氏らしい力作を寄せられていたが今後は一層川柳に精進せられることでしょう。▼小田無限氏(福岡県)が十月十一日に来社され三十年振りに路郎主幹と歓談された。氏は支海町の社会文教委員長をされている。▼富田狸通氏から、「道草面白く拝読しました。当時の思い出新しいものがあり、時化上りの松山空港の景色が現われて来ます。例の伯方島に計画さ

れていた佐健氏の句碑も先般建立出来たそうです。除幕式は来春とのこと。」との便りに接したが、近況にかえて「虫に佇つわれにかぶさる大宇宙」▼麻生路郎主幹は山陽新聞社会事業部主催、岡山市天満屋百貨店で開かれる年末義金の書画工芸展へ色紙を揮毫寄贈された。開催は十二月とのこと。

▼阿部柳太氏(富田林市)は十月七日富田林市地区労代表として、第五回全国自治研究会へ出席のため静岡へ行かれたが、市内名所の浅間山上の休憩所に静岡川柳会の川柳投書箱があったのが、大変にうれしく「空腹を運ぶリフトに夕焼の」の句を投函したと。▼水

谷竹荘氏(大阪市)はみちのくの旅に出られ飯坂温泉では飯坂川柳会の吉田聖人に会われたそうで、山形上の山温泉から便りがあつた。▼中村九呂平氏(下関市)は十月十一日出発、雲仙、長崎、天草、熊本への旅に向われた。長崎では池田可賢氏、熊本では大島壽明氏とそれぞれ款談される予定の由。▼大野木真砂氏(神戸市)は神戸製鋼所内の理立地庫場で作業中、手に全治十日間の負傷を受け

欠勤されたが、川柳の作句は思う存分出来た由。▼山田季賛氏(広島県)は十月十四日東洋工業(マツダ)を見学、組立工場で「自動車が玩具の様に出来上り」。▼野村味平氏(加賀市)は十月に入って心臓病と貧血症で苦しめられたそうだが、夫人はようやく小康を得られたとのこと、ご自愛を祈って居る。

▼月刊川柳「ねぶた」誌は昭和三十六年十月一日発行の十月号をもって百五十号を迎えられた。▼川柳句集「微笑園」が昭和三十六年九月二十日神戸市長田区東尻池町四丁目三五ふあうすと川柳社編集室から発行された。昭和三十四年、三十五年度の川柳誌あうすと各号雑詠より紋太氏が抽出された千四百句に及ぶ集大成であうすと文庫第二集、定価百三十四送料三十円。▼句集「松嶺」(一九五八・七・一五)句集「梅が香」(一九六一・七・一〇)がサンフランシスコの桑港川柳吟社から刊行された。両句集とも同社の自選句集である。非常品。編集人練屋静歩氏、発行人三上茶里氏

▼文久・大石正太郎氏(大阪市)

が十月七日、宿痾のため永眠された。六十三才。謹んで悼む。氏は明治三十一年一月三十日生。別号破傘、五鈴洞。大正六年七月、大阪新報柳壇出身。後番傘同人となり重きをなした。

▼吉本善風氏(尼崎市)は尼崎市久々知芝の前六佐山千鶴方へ転居。▼草深酔舟氏(奈良県)は奈良県生駒郡生駒町谷田一〇九六ノ八へ転居。▼水田帆舟氏は東京都北多摩郡清瀬町中清戸一〇七〇七国立東京療養所南七寮へ移られた。▼野田一念氏は愛知県西春日井郡勝町字鹿田東花の木へ新築移転された

▼過般の第二室戸台風の被害で全国各地の多数柳人語氏からお見舞をうけたただ感謝の外はない。それについても、近畿方面で、大なり小なり、被害をうけられた柳人の方々に対しては衷心からご同情申し上げる次第であるが、社をはじめ、不朽洞会の幹部諸氏が影なからず手をうけていられるので策の施しようもなく、お互いが自ら立ち上がるより仕方ない始末となった。従って各位の被害の詳報は差し控えることとしたので

柳誌・句集

転居

台風お見舞の感謝とお詫ひ

社の黒板

ご諒承を請う。
内には十月一日創設。支部長阿万方的氏。▼西田柳安子氏(川柳不朽洞会員)を十一月一日日本社の編集部に推薦。

〔新発売〕

新 神経疲労回復剤!

バランス



神経も レジャーがほしい!

- はげしい頭脳労働のため、思考力に疲れをお覚えの方
- お仕事に思うようにゆかなくて、イライラしておいでの方
- 重要な交渉、商談などをひかえて不安なお気持ちの方

ぜひ、バランスをおのみください。

山之内製薬株式会社
東京都中央区日本橋本町2ノ5
大阪・福岡・札幌・名古屋

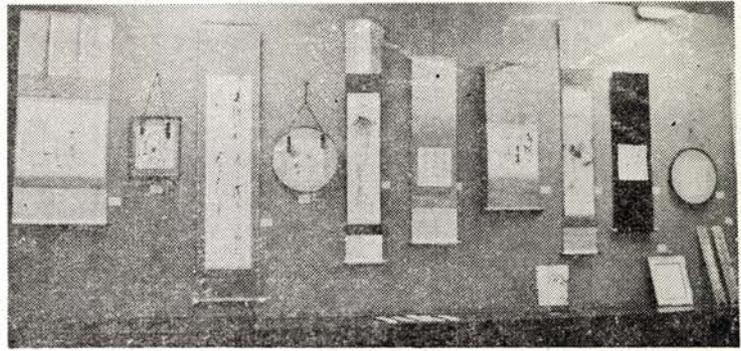
一〇ミリグラム 六カプセル……………二〇〇円
二〇カプセル……………三〇〇円
三〇カプセル……………四〇〇円
(ほかに医家向大入) (包装もあります)

● お申込しいたい説明書、試供品を送呈

第五回 短詩文学作品展

会場
丸善画廊

ずらりならぶ名作



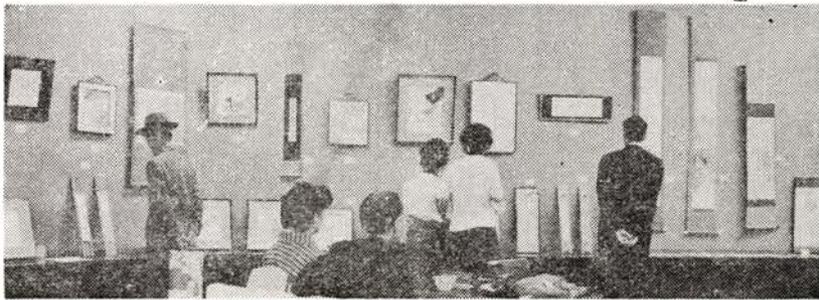
実行委員水尾大露諸氏の大作、力作が並び、短詩文芸作家の風格に溢れていた。

正面中央の路郎師の軸、
ふるくとも僕には仁義礼智
信

は一際目立つ大作で、その筆蹟の力強さは、師の健康が完全に回復したことを物語っているようであった。他に軸「幻の中で時計が鳴っている」も正面に併せ展覧された。生々庵氏は「行末は戯になる

第五回短詩文学作品展は大阪市民文化祭の頭初を飾って十月五日から十日までの六日間、梅田阪神百貨店二階、丸善画廊で開催された。詩・短歌・俳句・川柳各部門の作家五十名、百五十点の揮毫作品、軸・額・風呂先・陶器・色紙・短冊等が整然と展覧された。
会場入口正面には関西短詩文学連盟理事長麻生路郎師の作品をはじめ、常任理事安田青風・神田南畝、理事中島生々庵・安田章生、

身をもの芽あえ」の句に、俳西風の筋をあしらった軸など二点。北川春葉氏の軸「応接間ひんやりとしたい暮し」の絵どころにも驚かされたが、河村瑞川氏の歐洲旅行の収獲、北と南（北極とスフィンクス）と題する軸二点、「コペンハーゲンの人魚像」「ユングブラウ・ヨッホ」「サワラの駝」を



（作品展の一部）

戸田古方氏の短冊のカット風の画は一口佛頭の味か。中島小石さんも夫君の生々庵氏と同様、短冊に

カメラ・河相すゝむ
ペン・橋高薫風子

俳西を添えての婦随ぶり。逐一かく紹介してくると絵画展のような錯覚を覚えるが、路郎・霞乃女史をはじめ、梅里・多久志・梅志・阿茶・夢虹・奈良子・薫風子の諸氏は色紙短冊にそれぞれ句のみ認めての出展であった。

他に詩の小野十三郎・港野喜代子、短歌の佐沢波弦、俳句の岡本圭岳・湯室月村・菅田秋窓等大家諸氏の参加があり、盛大に会期を終了することが出来たが、作品展も第五回を終えて、益々飛躍すべき段階に来たように思える。来年度は新しい顔ぶれ、新鋭作家の大挙しての参加を希望して筆を擱くことにする。

★ ★ 作品展雑感

三 粟 夜 城

作品展も回を重ねること五回と

もなれば、もう立派な老舗（しにせ）である。

大阪の支園、梅田にある阪神百貨店二階の丸善画廊で催された短詩文学作品展は、秋の買物で賑わうデパート客の心を洗ってくれるかのようなだった。

清澄と風雅なムードは、都人にどれほどか心の憩いを与えてくれたかわからない。この画廊から一歩、店内へはいると、そこはもう消費都市の雑多な世相が反映するデパート風景だ。それだけにこの作品展の意義は大きいと思う。

デパート内にこの作品展をもつことは、繁華街の奥座敷といった感じで、くどいようだが実に心がすがすがしかった。短詩型文学のおレキレキの作品に接したこともうれしいことの一つだった。これから著名人の作品が一堂に集まるのも、この作品展ならではの圧巻であらう。

作品展と銘うつ以上は、意欲的な作品を新人諸氏によってドシドシ発表していただきたいものである。故須崎豆秋氏の作品なども非売品として展覧されてはどうだろうか。川柳を知らぬ人たちにも豆秋作品ならキツと共感を呼ぶこととならう。



思うこと

今西生薑

一体に川柳作家と云うものは意外に狭量で詩論を敬遠する傾向があるようだ。亜鍾氏の詩川柳にしても賛否は別として敬聴すべきであると思うのに、彼は詩川柳を説いても詩川柳は出来ないではないかと云う声を聴く、これでは川柳の中へ詩論は道入り込めない事となる。

純粹な気分で川柳を批評する場合なれば、そこには先輩も後輩もない筈であり、寛容にその批評を受入れる態度も欲しいものである。勿論礼を失するような事だけは絶対にさけないものである。それよりもっと「選者」それ自身の事を考えて見る必要があるのではなからうか。

丁度手許にある青森県川柳社のねぶた十月号のコンクールに推せん句を数字的に調べて見た。本誌では同人自選百五十句から約二十人の有力柳人二十名が三句宛推せんしている。

丁度十月号では十七人(この中には故太、宣介鞍馬氏等の名前が出ています)推せん句を点数で集計して見ると三句二句二句五句一点句が

めて各社の推せん句を批判し合えるような雑誌即ち川柳研究誌のようなものを作ることは出来まいか。終りに作品の傾向を知る為参考としてねぶた推せん句中の三句句と二句句を紹介しておきます。

実に三十五句の多きを数えた訳である。これを見ると川柳が如何に流派的傾向をもっているかが解るようである。

これではどれが名句やら判断がつかない。こんな状態で現在の川柳作家が将来を担っていかけるのであろうか。

もっと川柳社が大団結してせ

選のむずかしさ

紅原綺史朗

日ソ対抗体操大会は団体、個人ともソ連選手の優勝となった。体操は日本とソ連が世界を二分する実力者同士の対抗なので、全世界注目の東京大会だったが、ソ連側審判のあれで公平かどうか、という事になると後味のわるいおもしろい私だけだったろうか。

自軍選手なら平抜きを天にしたり、日本側選手なら天の句を平抜きにおとしたような場面もあった。これは採点の見解の相違だそうである。観覧者もおとなしなかった。さしずめ野球なら空ビンが飛ぶとこだった。外国のファンでも口笛を鳴

らすか、足で床を踏むかして、その不平を訴えるだろうとテレビ解説者も言っていたが、日本のファンはおとなしかった。だいたい戦後の日本人は強い者には弱いからおとなしかったのだからと思う。なにしろ相手は核実験屋なんだから。

それに顔点というのがあって、そのネームバリューに審判が負けてしまっているのである。川柳の選者にこんな人があつてはたまらないと思つた。日本第一流の選者級の人が句会で投吟すると、その筆蹟を知つての選者は文句なしにその句を拾い上げる、ということを知ったが、まったく不愉快な話だ。大万川柳のように、どれもこれも同筆蹟といふのがいぢばん気持ちがいい。

金泥集

選乃葭生麻

「半額」

半額の散髪シャツに毛が道入り	同	半額のおみくじ時々出して見る	同	半額を買って家計でへそくる気	同	酔夢	寝かすよりましと半額値ざらる	同	後江
半額の八卦半額だけしゃべり	同	家中を寝不足にするたのもしき	同	半額に女のケチがつりこまれ	同	同	半額の品うなずかすしみの位置	同	同
半額の店ありバスでみな出かけ	同	灯が流れ出して夜に入る汽車の窓	同	半額はもう通らない子の背丈	同	徳子	半額の声に財布を検べて見	同	同
半額で買った支那に居た自慢	同	職辞めた妻の座に落ちつかず	同	無理な半額木戸口しゃがんで通りぬけ	同	同	半額と云わず値ぶみをさして見る	同	同
半額の健保ヘルミ貨用意する	同	ガイド美声さらに景色をひきたてる	同	半額商賣もう株主ではありせん	同	同	半額に聞いてよいホラ吹きまくり	同	同
半額の風呂屋で二時間程遊び	同			半額の子供おとなの席を占め	同	栄	半額で無理して乗せたバスの隅	同	好女
半額の風呂屋で二時間程遊び	同			半額へし寸ばかり残っている	同	同	半額券が勿体のうて映画を見	同	同
流行を気にせず半額買うて着る	同			半額で一人前の座席とり	同	白美	半額をまだよりぬいている女	同	松代
いらぬ物まで買うて半額高うつ	同			半額で二回見てきた映画館	同	同	半額の強さ半額までねざり	同	同
どうせ私半額ですよとすねている	同			半額にこりてまともな品を買い	同	清子	半額の値札内心面はゆく	同	奈良子
半額で買った進物気がとがめ	同			半額の餌にあんじよう引つかり	同	同	半額の広告緑なし月給前	同	三千子
半額で書いても客はとびつかず	同			五割引きストックものをはかす気か	同	美喜	半額の映画フィルム切れ通し	同	勝子
半額で買い食堂でさんざいし	同			出血の間屋泣かせに半額品	同	同	額面以下を承知で雇うアルバイト	同	葭乃
うらめしい半額品のちぢみよう	同						次回「ふり出し」切十一月末日		

いのちある句を割れ



投稿規定
▼用紙は原稿用紙▼文字は正
▼締切毎月十五日▼投稿先
本社宛

本社 十月の会 (大阪市)

10月7日 午後6時

会場——関西会館

秋の作品展とかけ持ちの路郎主幹は、多忙をきわめておられるが、きょうも誰よりも早くから会場へ出席された。

暑かった今夏も、どうやら十月ともなれば、爽秋の気が会場大広間に流れる。第二室戸台風の被害をうけられた柳文からは「無念欠席」の通信もあり、今月も出席率は低調である。せめて文部から五名以上は出席するようお願いしたいものである。

北川春葉氏の柳話は、川柳の雅分について、年代別に相当の日時をかけて調べあげたものご、こまかく数字をもって示された。いずれ本誌上に活字となって読んでいただけることおもう。

新選者高戴風子氏選「グループ」から披露の幕があく。六選者がすむといよいよ不朽洞賞作品の発表である。そして最後に読みあげられた句は、不朽洞賞作家吉本武風氏に彈いたのである。

出席者—路郎・三司・舟遊・す、む・静馬・八郎・水客・一三夫・梶子・水京

・正一・十悟・摩太郎・生々庵・いわを
・戴風子・蕨児・繁雄・栞・文秋・敬太
・唐風・白柳・酔井・狂二・尚史・紫香
・旅風・柳宏子・春葉・一瓢・梅里・愛
論・唐佑・雄声・南宗・恒明・高史・い
さむ・阿茶・宏子・霞乃

兼題「前身」 麻生路郎選

酔えば直ぐ元將軍の癖が出る 八九寸
前下がどうあろうとも僕は白照児
前下が太閤さん土臭し 清風
前下が粉屋の娘とねたまれる どんたく
前下が聞かされてはと黙呑権 句念坊
前下が白バックして地味づくり 真砂
恩給でやってみんねと拳手の礼 柳志
前身を知らねど今は長者なり 生々庵
前身を昔の名刺きさに見せ 喜仙
前身の事にはふれぬ釜ヶ崎 摩太郎
前身をとや角言われる程出世 雄声
前身を語るに落ちる酒の冷え 三司
前身を洗い警察あわて出し 紫香
野に下りた官吏くまみけ抜け切れず 十悟
用心誰も前身まで知らず 文秋
用もないのに前身触れたがり 柳宏子
前身をきかされ一歩引下る 恒明
おみそれをした前身に畏まり 南宗
前下が女性であった 診断書 旅風
前下が呼ばれていてもあらそえず 春葉
奥様と呼ばれても馬鹿な叱りよう 萩児
前身にふれて馬鹿な叱りよう 萩児
移転した先でも前身聞かれとり 白柳
かくしてもお里が知れぬ身 十悟
前下が誰にもわかってない魅力 す、む
一中の誇りを教師だけが知り 敬太
前身をいたわり合える夫婦仲 恒明

前身ははんまでつかとにも寄り いさむ
前身は知らずピョウで風を切り 多久志
仕事にもなれたに前身あばきに米 一三夫
前下が物言う伊達巻きめとしめ 阿茶
前下がタレントに似ず無口にて 八郎
燃えているうちは前身気にならず 尚史
パリの隅前身言わぬ男居る 白柳
前身は何であらうと神父様 八郎
前身のことに触れぬ思いやり 梅里
何してた人やと親類やかましい 水客
前身を秘めた飯場で捕えられ 狂二
前身は問わぬ働かぬ気はないか 生盛
前身を知る朋輩を寄せつけず 薰風子
前身をその酌きかたで覗かれる 主井堂
前身をきく客みんなカモに見え 静馬
前身を隠しきれない仲になり 南宗
聞かたに前身すすつ変わり 旅風
半玉のころはと尼僧なまめかし 宏子
前身をモチーフにして直木賞 蔚風
前身はジャンバルジャンを例に引き 路郎

兼題「近所」 清水白柳選

近所まで来ましたなんて飯時に 露児
犬の散歩で近所の地図を知る 恒明
近所の犬がつかいで吠えてくれ どんたく
近所からカツギ出されて立候補 清風
きき合わせ近所はみんな口にし 阿茶
アパートになって近所が遠くなり す、む
こども早や近所へ慶事ふれ歩き 八九寸
催眠がしにくい近所内輪もめ 繁太郎
自分とこの大学のように商店街 敬太
ビルブーム近所眠れぬ音つづき 文秋
ヨート呼ばれヨート答えて呉れる近所 十悟
近所が河やと次男の声高し 萩児
近所での噂二号にしてしま 三司
夫婦して近い他人へ茶をいれる 水客
近所もう別れた位で驚かず 紫香
小説家近所の人の名も知らず 一三夫

兼題「相場」 八木摩太郎選

丁寧な言葉で近所嫉み合い 旅風
いつどこで聞いたか近所が知っていた 梅里
近所が小火ですませさせてくれはって 十悟
うるさいが近所の世話やき役にたち 阿茶
近所みな同じレベでうまが合い 蔚風
坊さんが居らないだけの近所 旅風
目と鼻の先に警察消防署 南宗
近所へは見せぬつもの千鳥足 蔚風
終電車どうも近所らしい顔 す、む
近所では敬遠してもボクのママ 真砂
近所まで来たと病状にはふれず 水客
近所までうさん臭がる客が来る 一瓢
近所みなもの空地へゴミを捨て 春葉
宿替えを近所はその日迄知らず 白柳

BGがトランジスタで聞く相場 どんたく
彼庶底買うたつもりがまた外れ 静馬
相場師がお礼詣りの信賞生駒 いわを
人間の相場がわかる汚職沙汰 白柳
他人さんの株の相場が気になり 静馬
マニービル夫婦で相場欄を読み 柳宏子
相場欄もう見るのも嫌な程下り 紫香
相場にはもうこりまりました裏長屋 多久志
マニービルをめぐらされて来た相場 狂二
先物を見越して相場よく当り いわを
端株でも持てば気になる相場欄 柳宏子
開票へ鯛の相場がハネ上り 尚史
風吹いてお米騰つたのも昔 主井堂
持株の相場が上がるふところ 尚史
相場欄あてにしているスケジュー 一三夫
洗たく機まわしてママの相場らん いさむ
この頃の祝儀の相場侮どれず 萩児
牛乳とトリストと朝の相場欄 水客
相場師の老後は孫娘と小す、住み 敬太
人間の相場もきまる金次第 尚史
このへんで見切りをつけて儲ける 愛論
小金たたく位に株だの相場だの 生々庵

倍増へ相場が先にうわまわり 梅里
相場夫人指輪あつたりなかつたり 一三夫
買がたり破産をするそうなる 摩太郎

兼題「週末」 正本水客選

週末の心疲れるあ手も心もこぼれる 真砂
週末の役所陳情へ立ったまま 八九寸
週末に転地までして想を練り 繁太郎
週末の約束忘れて菊いじり 圭井堂
週末の別荘汚職の匂いがし 多久志
週末の嵯峨野の秋は暮れ早く 三司
週末の部長の印の快速度 どんたく
週末のレジャーへ彼女から電話 雄声
週末を待ちかね奥さん看護に来 一鶴
週末の夜しみじみと虫を聞き どんたく
週末をつんぼめくらでいてみたし 阿茶
週末を妻のプランに引きずられ 文秋
週末へプランだけだと案じまん すむ
週末と言う気易さが酔うて居り 柳宏子
週末の出張女房に恨まれる 柳宏子
週末をたのしむ二人五十過ぎ 葉
週末の退社のドア軽く押し 旅風
週末になれば旅立つ実力者 摩太郎
週末を妻や子供が騒ぎ立て 春巢
週末をそのまま寝込む二日酔 生々庵
遅いのは週末だけでない夫 南宗
年内の週末全部予約済み 愛論
子のプランをそんなしんどい週末か 一瓢
切端つまって週末をだしにする 白柳
週末のプランプランのままに消え 旅風
週末は案に寝る気のパパママ 一瓢
週末を気軽な旅に出る二人 庸佑
週末も知らずに来てる忙がしき 喜仙
週末はチップにならぬ家族づれ 一三夫
ライバルと週末おびプラン組む 水客

席題「ムード」 小川恒明選

監督の方がムードに酔っており 南宗

酔いどれに旅のムードをこぼされる 静馬
奥の手も読めずムードにのり込まれ 正一
打ちあけるにはよいムードの曲となり 堰子
日教組ばりのムードで子を育て 生々庵
ホームパーティムードがほしい妻と飲み いさむ
入れ歯ガタつかせムードのない喋り 十悟
こわされたムードの中でほつとかれ 紫香
ため息のムードというを噛みしめる 水客
ムード売りのものに電灯暗いだけ 旅風
一杯のコーヒでねぼつて居るムード すむ
反論を会のムードにおしきられ 庸佑
ムードムード矢鱈に部屋を塗りかえる 柳宏子
紫煙ゆらいでアベックへ良いムード 愛論
ムードこわさずタクトよく動き 柳宏子
ライブパーティに生きて居るムード 白柳
二人だけのムードだまってる 柳宏子

席題「ほろ口」 真鍋一瓢選

ほろ口に釣られ家を売り土地を売り 水京
ほろ口をねらって夜逃げをせられる 愛論
ほろ口の片棒かつく十二月 梅里
何故言わぬそんなほろ口あつたんか 白柳
ほろ口へまたもへソクッ消えたまま 柳宏子
ほろ口でつせとキロキヨロあたりを見 愛論
ほろ口か電話OKだけで すみ 柳宏子
ほろ口をかきつけ片棒かきに来 生々庵
ほろ口へ昼めし三時過ぎになり 春巢
清貧に甘んじほろ口はねつける 愛論
ほろ口もやっぱりもとで居る話 庸佑
眼に見えたほろ口資金手回らず 狂二
ほろ口を言って水準以下に居る 菁風
ほろ口へ金のないのが顔を出し 紫香
しんせつでしたほろ口でせんをさせ 舟遊
ガム噛んでいるほろ口はたか知れ 水客
ほろ口へ煙草の灰は膝へ落ち 三司
ほろ口に夫婦仲よくひっかかり 柳宏子
ほろ口を狙って地道あきたらず 水客
こそこそと言うほろ口にかかり 静馬

釜ヶ崎そのほろ口の小さいこと 一三夫
ほろ口は算盤どおり運ばない 恒明
金のない者にほろ口相談し 高史
ほろ口へ馬鹿正直はついてけず 恒明
台風がすめばほろ口考える 繁雄
ほろ口の方は仕事がよくとぎれ 文秋

席題「グループ」 橘高薫風子選

グループの心とけ合う歌となり 尚史
ちよちよの頃はグループ気が揃い 文秋
グループの一人へり二人ふえ 旅風
グループにブレイク役も一人居り 酔升
詰腹を切らずグループとはみえず 柳宏子
グループが次ぎつ貰い着かず 菁風
出世して元のグループがらうかい 柳宏子
グループのすく感情が出てしま 水客
グループの役割いつとなく決まり 柳宏子
グループは同じ弱点持ちあわせ 正一
グループが悪いと母は子をせめず 雄声
グループはドヤドヤとほいつて来 春巢
灯にたかるグループみんな酒が好き 三司
グループの今日は応援席にいる 春巢
チョンガーでなくグループ変るなり 恒明
グループで頼むと会員券持たせ 文秋
放課後はグループ別に門を出る 菁風



グループで騒いだだけでまもらず 南宗
グループに分かれてどこか水臭し 白柳
よう笑うのがグループに一人いる 春巢
グループの一人が学校出ていない 水客
一人欠けグループ盛場へ行かず 敬太

つと密をゆずればグループみな譲り 静馬
下戸なのに飲むグループをなれない 白柳
幼稚園にもグループというが 薫風子
(庸佑清記)

川維 玉造支部句会 (大阪市) 西出一栄報

封筒の裏返えされて二度の役 清子
現金の封筒いたわって破ぶり 文秋
きまきまにネパチンコが二度廻り 白柳
二度とない青春をカメに引かかり 正一
売れ残り紙を承知で安く買い 水京
私の手芸最後は祖母の手にかり 章子
マニキュア奇麗に動くレッシュ編み 守信
またデイト手芸一向はかどらず 一栄
雑役の目に公園の草飯のたね 風仙洞
雑役が休み通路一つがままならず 柳宏子

川維 阿倍野支部句会 (大阪市) 金井文秋報

バスガイド名所フツフツしやべり過ぎ 生薑
ハネムーン名所古蹟はうわの空 梅里
裏表ない人生に実が結び 双葉
お育ちのよさが裏まで読みとれず 柳宏子
その裏は問うまい人の世の掟 十悟
国産で残念ながら辛抱する 葉光
見たような記事で気がつく月おくれ 柳宏子
月おくれなら立読みも大目に見 文秋
買わぬ気が半額の声につりこまれ 光福
半額でも通らない子の育ち 良
上役のすかたん笑いこらえとり 庸佑
贅六の喧嘩すかたんあほんなら 万里
地下鉄をすかたんに出た星の位置 恒明

川維 淀川支部句会 (大阪市) 木村水洞選

策尽きて易者へ繰る落しもの 慈楼
女房が借用しない落し物 水洞

パイパイとインスタントラフ
 インスタント妻のレジャーをまたみやし
 インスタント食事の方が余暇となり
 インスタントの時代へ遠く裏千家
 金策が未だ帰らない針仕事 東洋男
 金策のベタルに夕陽暮れかかり 花村
 海埋む日本は狭き青写真 生薑
 青写真みな人様の家ばかり 一鶴
 ああやこや宋によこされた青写真 句念坊
 青写真この素人とおもえども 若菜
 青雲の心に描く青写真 香林

川雑にしなり支部句会(大阪市)

後藤梅志選

猫いなくなつてニボシの捨てどころ 冬樹
 現実はいかにも敵しき豹の目よ 葉平
 きりぎりす死んで虫こまよりだけ 慎太郎
 背番号つけて台風やってくる 梅里
 十年の開き主観が違い過ぎ 良
 井池で揉まれ十年巾が出来 生薑
 十年の苦茶子飼いの専務なり 梅志
 宿病十年金に直せば凄かろう 薫風子
 一と口に云う十年の浮き沈み 速
 十年へ記念行事もいはい社運 晃
 いい話もう十年も若ければ 晃

川雑備前支部句会(岡山県)

横山一声報

台風の前ぶれもやもやしてくらし 博
 ゆっくりと来る台風に気が疲れ 真奇
 台風の通路に日本横たわり 真奇
 台風が義捐金までとりに来る 裸子
 台風と一緒に主人がかえって来 清春
 台風の腰がくだけて慈雨となり 輝次
 台風の日の出動を見送られ 米男
 あばら骨見せて着替えのはかどらず 賤女
 着替えても顔は変らぬ無性ひげ 良子
 着替えた上着に定期を忘れて来 道雄
 冷汗をかいて申し訳らしくなり 久米雄

田舎つべ暗着に着替えてもわかり
 倍増へ給料申し訳ほど上り 一声
 手土産を申し訳にして朝がえり 東岸
 申し訳のように見舞が来て帰り あやめ
 本心を酔いにかこつけ申し訳 白晝
 大物と思うて長香つり上げる 胡風
 長香の片方が形見となる流る 秋月
 長香の底にも秋がひそんでた 芳月
 長香がまだ重そうな病み 上り 伊久野
 父ちゃんの長香借りた煙草買ひ 龍泉

川雑ハワイ支部句会(ハワイ)

築山快夢起報

誘惑に勝って来た夜の淋しさよ 魔花麗
 嫁自慢姑の値打また上り 旋風
 ご自慢の声に鳴る鐘ただ一つ 紅茶
 冊郷して自慢の手前寄附の高 泉太
 誘惑に負けて一本唄いつける カロ女
 年波へ自慢話のくどいこと 暁舟
 しょむない奴でと親は自慢なり 快夢起
 誘惑をしないでと流し眼瞼をろき 須臾
 合極も程よく自慢をきくも腕 須臾
 大漁の旗色自慢をきくも腕 須臾
 誘惑をかけて上げなくうそぶかれ 内海
 虎の子をみんな取られて夢がさめ エス子
 炒豆を噛んで自慢の総入歯 紅溪
 のど自慢鐘の一つに恨みあり 銀水
 自慢じゃないがと自慢さかされる 細香
 膝枕恋の誘惑おそい来る 岡防
 誘惑がまたたきとるレーの灯 柳葉
 嫁自慢母の日課のただ一つ 峯八郎
 ボカ札の誘惑預金引出させ 義一
 誘惑の手にも乗れない船となり 萩路
 誘惑にふれずわが道歩んで来 緑星
 意識して誘惑に負け悔もなし 押山
 親切を楯に誘惑からんで来 万里歩
 誘惑に負けても見たし春の宵 弦月
 御先祖の血が誘惑に目をつむり 浅太
 誘惑に堪えて淋しく幸を待ち 浅太

食品と科学

食品と原資材・機械・包装の総合誌

11月号発売中 150円(〒18円)

特集

凍結乾燥食品の理論と技術
 冷凍食品の将来性
 即席ラーメンへの評価と希望
 即席食品への機械化の趨勢

講座

食品官能検査 ⑦
 食品工場の衛生 ⑥

◇海外ニュース ◇特許ニュース
 ◇意匠ニュース ◇商標ニュース

【展望台】主食・罐詰・菓子・飲料・添加物

食品と科学社 大阪6702番

川雑篠山支部句会(兵庫県)

酒井ひか平報

安物で撮っても彼女よく写り 青降
 安物のドレスが始のお気に召し 万世
 ビチビチと若さこほれる夏姿 弥栄
 若い衆に負けても恥でない当世 虫村
 若者の意見古老がけむたがり 孝風
 炎天の工事若さがものを云い 万世
 ひぐらしがかえれかえれと鳴き始め 無鬼
 ひぐらしにせきたてられていんキッス ひか平
 ひぐらしへ出世忘れれた昼を寝る 永断
 ひぐらしの大將千年杉で 鳴き 可住
 ひぐらしのそれから涼しと仕事 みのる

川雑岡山支部句会(岡山市)

浜田久米雄報

老いらくの恋かきたてるまむし酒 麦太楼
 刺戟なき車掌に雨の面白し 飴ん坊
 田舎医者内科だけではとまらず 仁斎

川雑米子支部句会(米子市)

小西雄々報

田舎まで大阪弁は巾がきき 無閑
 立秋に金魚天寿を全うし 一保
 中元のやりくりし紙替えて出し 吾柳
 立秋に入る日風鈴音おしみ 芋人
 風鈴が音を立て出す秋の風 素人
 世話役にまつられお人好しにされ 鶴丸

未亡人刺戟を避けた夕涼 一声
 女一人生き抜く刺戟株を買ひ 佐加恵
 残暑から宿願親子総がかり 輝次
 内科医がこの町へ来て外科もや 半翁
 催促をすれば出前は出たところ 久米雄
 内科ではもうなおらないから 秋月
 父さんの散歩へ背中から指図 皎虎狼
 寒い方がええと残暑の汗をふき 若菜
 背鉛がはずれはくのがぞいてた 香林
 云いにくい言葉を背中へあびせられ 哲郎
 腹痛を医者は容しやもなく押え 哲郎

ぜいたくな悩みを読まず相談欄
足の裏拭けば掃除は仕舞いなり
捨て切れぬ夢あり斜陽の職を
なつかしのメロディ初恋の人も
癒の母親族会議知らず病み
病人の愚痴は自由に食べられず
心中の片われ遺骨へ無表情
一机
明甫
幸子
敬太
喜夫
翠月
雄々

川雑 松江支部句会 (松江市)

勝谷山川児三回忌

小林孤呂二報

大橋の景に見惚れた乗り遅れ可明
女文字母に不信の日がつづき大鳥
母ですと弁解しての女文字祥月
大木が村の歴史をかみしめる好江
のりおくれ波の音きく駅で待ち二三子
個性美を買われて躍スターの坐真美
少しは見える按摩の黒眼鏡幸三郎
ほんとうに父が怒った眼鏡越し英城
大木を一本のこし村界孤呂二
大木は知って居そうな出土品一兆
この月の酒乗り遅れよう一穂
唯一つ残った金魚の水を替え比呂志
おそわった通りした金魚死に一生
階級の隅で個性が小さくなり豚見
老松の個性に城が支えられ妖人
口止めにおんな指切りせよと云う快哉
釣竿のほこりと共に病みつづけ叮紅
忙しい世を避け釣竿静かなり逸名

川雑 弓削支部句会 (岡山県)

直原七面山選

警棒を手に派出所の夕涼み生薑
日帰りの里に帯解く暇もなしたつよ
黒猫の足音もなく月の夜美沙
もう月の色さえ変わる程逢わず知恵美
目覚しを掛けて安心した寝顔賤女
苦心してニキピをかかす厚化粧しおり
歯車の一つ私は七十二周甫

台風へさすが鉄筋たしろがず遠山
ママゴトの墓大蟬の供養する仙人坊
生きている証の暑中見舞状杏朗
台風へ生かさればならぬ舟を出し文舟
全学連親の苦勞は露知らずさゆり
日焼止めを忘れて海を見て帰る二郎
婚約してから日焼苦にならず栄
日焼した顔で語ろう海の恋甚六
コップ酒日焼けた顔の色を増し三太郎
台風を避けて行きそな妻のヒス算馬
台風へ吹けば飛ぶよな一軒屋要人
苦勞してやつと訪ねた先が留守賢也
女手で育てた吾娘の晴れ姿みつえ
救済の募金へスターの顔を借り千恵子
台風過ぎ予報が当り出し三四郎
日焼止めの広告欄が目奪い高子
苦勞して親のありがたさが判り惣徳

大阪通信病院川柳会 (大阪市)

あやめ池吟行

橋本幸男報

戸を蹴って起こせば隣りらし声風仙洞
泉水があつたばかりに兎を殺し春雄
初めから待つ気デイトへ週刊誌草右
週刊誌で背をたたかれた戎橋史葉
収賄をしそうな顔が床柱露見
ダンブカーをもう恐れないほどに酔い春葉
ダンブカーまた三面のトップ記事愛論
床柱背に老夫婦写真とりハナ子
だらり舞う祇園の酒の床柱宏子
間違えた部屋で一杯すすめられ幸男
床柱から向うの山の名を訊かれ路郎

杏林川柳会 (大阪市)

帰朝談ホームシツは伏せて置き一伸
顔ぶれをみて帰朝談向きをかえ小石
一万二千呎まだ日本の灯も見えず瑞川
日本の良さも分つて父帰る珊瑚枝郎
帰朝してその洋モクのキザをこ生々庵

南海電鉄川柳会 (大阪市)

辻圭水報

歩くことが長いと地下鉄やめにする雄声
地下鉄は隣の街へ穴をあけ句念坊
地下鉄に働か太陽なつかしく尚史
地下鉄のこころあたりは川の下貴山
地下鉄で待ち合せて共かせぎ宏子
地下鉄で又方角をととり違え圭水
交又点無うと地下鉄あいそなし尚史
地下鉄でとうとう靴に泥がつきみなき
地下鉄で会えばママは眼で会釈路郎

コクヨ川柳会 (大阪市)

川口理休報

横丁のぼんちのツツで嫁き遅れ珠已
自分だけは別だと思つているファン龜心
新人のファンは厚く礼云われ義広
最下位のファンは厚く黙つて居留鈍
ライターに未練残して火を借りるほたる
陣笠に長を与えた首相ぶり理休
三周年を祝う生々庵
三年自さあこれからの汗を拭き生々庵

富柳会句会 (富田林市)

阿部柳太郎報

おぼろ月散歩も母でもの足らず美代子
散歩までフツツンモザルはスマートに紅月
子の立場ただ叱られて泣くばかりひろむ
さびしいの貴方の立場わかるけど八郎
親としての立場黙つて見ておれずはじめ
宿浴衣の散歩へ夜の蝶が舞い六龍子
かや吊つて推理小説よみふけるきはち
蚊帳半分釣つたばなしの一人者吉太郎
生活の疲れかくせぬ蚊帳の色尚史

明和川柳研究会 (西宮市)

樋口舟遊報

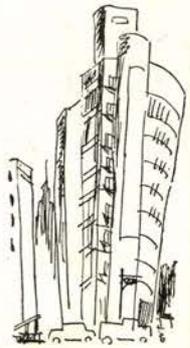
朝が来て線路はもとの位置にあり新子
女唄で朝のキッスをして送り弦月
寝坊した朝不機嫌に顔洗う悠紀
朝が来なよと極が鳴くが二人は死んでた夢虹
真白いキャンパス朝の霧がふり舟遊
朝は正義魔法の術がとけて来る舟遊
朝の口へ花と並んで立っている蕉風子
大物が時刻きつちり来てあわて文秋
ぎりぎりの時刻へ尋ねなや着きかつみ
一列になつてサイクリングの道険わし九州男
サイクリング追風に乗る浜コース曙蝶
抵抗を見せずに藤の花が垂れ幸梅志
薪能奈良にはさがり藤の幕三秋
ランフィション宇宙をちぎりと飛んだだけ文秋
発射オーライ計器の中の宇宙人三舟
ごゆつくと旅館は散歩送り出し生薑
かさ高い主人散歩に出てもらい呂人
ボロイ話眉唾ものと聞き流し大丘子
環境の影響自我にとじこめる草人

大萬

梅里の店

★大万川柳(第百二十九回)を募る
兼題「女社長」 路郎先生選
締切・十一月十五日 五句以内
発表・十一月廿日 (店内掲示)
投稿先 阿倍野区松崎町三ノ三
大万川柳会宛

酌よし 千日前大劇専
TEL(0)二七二〇
味よし アベノ橋近鉄地下
TEL(0)一四七



柳樽室

路郎生

★今年の夏は長かった。台風で、てんやわんやのあと、三日ほどは涼しかった。コレで夏も過ぎたのかと思っていたら、再び残暑、十月の下旬になっても暑さは更に去らない。こんなことは私が生まれて以来経験をしたことなかった。

★台風のとまたついで、忙しいだけでなく、短詩文学作品展の展覧に続いて大阪市民文化祭の市民川柳大会で大変だったが、何れも予想以上の盛会で働き甲斐があったと云えよう。

★本誌は相変わらず好評なので編集局も張り切っている。寄稿家も愛読者も一層のご支援が願いたい。

★十一月十六日に京都の支部句会へ出席することにした。ひさびさに、皆さんに、会えることを楽しみにしている。なるべく皆さんと話し合える会にして欲しいと思っ

ている。京都は近いのでその日帰りの旅となるか、一、二泊するか今のところでは決まっていない。

★コペンハーゲンのステーマン女

史からエヤーマールをもらった。生々庵医博に「川柳雑誌」をことづけた札や近況が報じてある。異境の知人が少しでも川柳に関心を持ってくれる日を待ちのぞんでい

る。

★交通マヒはますますはげしい。その事故で日 multidigit のギセイ者を

出している。理由のない殺人が随所に起きる。最近も巡査を刺殺し

運転手を射殺した事件が梅田の繁華街で起った。私たちは防弾チヨ

柳人交歓年賀広告を募る

川柳雑誌社

ツキに身をかためて外出しなければなるまい。人権人権と云っていた人々は、そうしたギセイ者の人権をどう考えているのか聞かして

- 新年号へあなたの
年賀広告を
- ★一口金二百円。幾口でも申し込んでください。
 - ★一口分の原稿は住所と姓と雅号程度。活字指定はおまかせ願います。
 - ★一口分は五分の一段組三行。
 - ★原稿締切は十二月七日着便。
 - ★広告料は前金のごと(郵券代用でもよろしい)

欲しい。悪人は殺せと云うと映画の題めくが、何犯も重ねさす必要はない。彼等を救うものは彼等を死刑にすることではないか。考えるとそんな結論も出たくなる。

★平和論者の私は一時も早く、善意の人のみの社会の実現を願ってやまない。そこに短詩人が大きくクローズアップするであろう。

・ペンの散歩・

▼短詩文学作品展、大阪市民川柳大会と、このところ路郎生は、お休みの水曜日返上というご多忙さである。若いほくがもつとはた

らけるといいのだが、相変わらず先生にご負担をおかけして相済みぬことと思っ

▼西銀座シリーズだなんてマスコミが騒いでいたら、ホークスが土性骨の羽ばたきを見せた。土性骨は川柳人にも必要だとおもおうが、スジのとおった筋金でありたい。

▼テレビ化はテレビ禍に通じて、ほくなんかも日に二時間は仕事を食われている。劇、映画、本屋等々みなテレビに食いこまれているようだが、もし句会不振もそうなら、これはいへんなことだとおも

う。

▼ソ連が30—50メガトンの核実験を、各国の願いをふみにじってまで死の灰をバラまく暴挙に出た。まるで「花咲爺」の意地悪いさ

んそのままで。こうなったらかなわぬまでも川柳でこの怒りをブツつけてやりたい。

▼年賀広告の時節がまた来ました。よろしくお願いします。

(一三六)

十一月の句会—川柳支部

★淀川句会・10日(金)六時、題ヤクザ・ボタン・期待はずれ、所十三西之町五丁目東淀川郵便局、

★玉造句会・10日(金)七時、題感想・区切り・煙突、所、市電玉造南百米大阪信用金庫、★明和研究句会・5日(日)一時、題、峠・秒・毛、所、阪神鳴尾駅東南二百米鳴尾公民館、★京都句会・16日(木)夕、題、一人・溜息・蝟

所、四条繩手仲源寺、★米子句会・19日(日)一時、題、魚・奥さん・法事、所、米子市公会堂和室

★にしなり句会・19日(日)六時、題、音楽・柿・無題、所、玉出新町通一ノ一後藤梅志居、★南海電鉄句会・30日(木)六時半

題、旅・からまわり・延期、所、難波高架下親和クラブ、★阿倍野句会・20日(月)七時、題、内幕・名案・だし抜け・鼻柱、所、阿倍野区松崎町三ノ一〇割烹大万、★宇部句会・12日(日)一時半、題、任期・芸術・トリック・席、所、宇部市東区恩田長沢市住津秋

六花居、★かがみ句会・2日(木)夜、題、新築・告白・尻馬・じり貧・倉庫、所、池田古心居。

麻生路郎著 好評嘖々

竹川柳歌賞

川柳の味い方・五百数十句

(毎日新聞評)

麻生路郎さんは明治三十七年から川柳を手がけているといふから川柳歴はもう五十五年にもなる。この新著は麻生さんが毎月出している「川柳雑誌」に掲載されたものを中心にその他の雑誌や句集からひろった五百六十三句について、ひとつひとつ丁寧な注釈を加えて、鑑賞の手引に資そうとしたものである。

句の方より実はその鑑賞文の方がなかなかうがって、一気に読ませる魅力がある。

価二五〇円 送料八〇円 B6版 二五〇余頁

発行所 川柳雑誌社

大阪市住吉区内万代四丁目二五番地

電話 〇六〇八一 振替口座大阪七五〇五〇



第一製薬
東京・日本橋

精がつく薬

パント錠

副腎・肝臓強化

副腎に効くパント錠は
精がつきます。疲れがとれます。

疲労・中年過ぎの精力、体力の衰え
三日酔・肌あれ・アレルギー性疾患

20錠・50錠・100錠

若本多久志著 麻生路郎序

川柳 親ごころ子心

価 150円
送料 50円

「川柳雑誌」の川柳塔及び近作柳樽の中から親ごころ子心を註
った秀句を多年に亘って根気よく拾い蒐めたのが本書である。
登載された柳人三百余名、集句二千余句と子の愛情が如何に深
いものであるかを知ることの出来る、実に有意義な書である。

東野大八著

風流 人間横丁

価 250円
送料 70円

B6型 二五八頁

★異常な戦争にまき込まれ隻手となって帰還した著者の
ザックパランな人生批判が、その雄筆からほとばしるさ
まは凄い。まるで腕の冴えた板場の切れ味にも似てい
る。★本稿は戦後十三年間、「川柳雑誌」に掲載され、
好評、サクサクたりしものに補筆した雄編である。後半
に川柳に関する卓見もあり、肩の凝らぬ読物としてお薦
めしたい。

高鷲亜鈍著

詩川柳考

B6型函入 定価三百八十円 送料九〇円

★著者は曾て創生期ごろの超現実主義者であったがその
詩論は詩人の民衆的立場を要請した／今は柳界にあって
庶民の詩人的自覚を促す／ここに川柳雑誌社が誇る現代
川柳批評家として世に送る／凡そ前向作家を自負する柳
俳人必読の書

★この送金は振替口座をご利用が便利で安全です。(切手代用可)

大阪市住吉区西
元行所 万代西5丁目25

川柳雑誌社

振替口座大阪75050
電話大阪 6081

Printed in Japan

募 集

課題吟募集

- 病面 金子院 (千句以上)
- 田垣方大選 (千句以上)
- 木村千悟選 (千句以上)
- 中島生々庵選 (千句以上)
- 音 鶴 (千句以上)
- 若本多久志選 (千句以上)
- 野村味平選 (千句以上)
- 伊達堰子選 (千句以上)
- 長テール (千句以上)
- 伊達堰子選 (千句以上)

近作柳樽

- 麻生路郎選
- 北川春葉選
- 麻生路郎選
- 川柳塔 (柳人句は四)
- 麻生路郎選
- 文 章 (評論・研究・感想其他)

投稿規定

- ▼ 投句は各種必ず別紙に認め、住所氏名雅号を明記する事
- ▼ 「近作柳樽」は一般作家の雑吟を募集する
- ▼ 「課題吟」は誰でも投句が出来る、川柳塔の投句は不掲載会員に限る

川柳雑誌 第三十六号

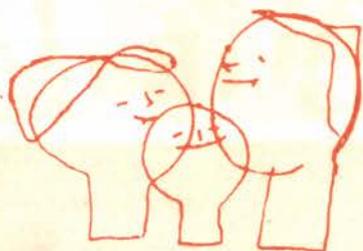
B例5号 毎月一回一日発行
定価 九〇円 (送料六四円)
半リ年 五七六円
一カ年 一、〇八〇円

(禁転載)
昭和三十六年十月廿五日印刷
昭和三十六年十一月一日発行

川柳雑誌社

大阪市住吉区西5丁目25番地
行所 元行所
編集 麻生路郎
印刷 藤生幸二部
大阪市住吉区西5丁目25番地
振替口座大阪 七五〇五〇

一家そろつてホーライ党



廣東料理



大阪なんば・TEL 551-2

疲れをとり
抵抗力の強い
からだをつくる

高単位総合ビタミン・ミネラル剤

ポポン-S

20日分 350円・60日分 950円・120日分 1600円



塩野義製薬株式会社

麻生路郎先生著
川柳の作り方と味い方
川柳はわれわれ庶民の饒らざる声である。
絶叫・嘆息・嘆声・嗚咽——そうしたもろ
もろが十七音に圧搾された風刺と諧謔の短
詩型、それは伝統的であると共に常に革新
的である。その川柳がいかんにして発生し、
経過し、今日に至り、将来に動くか、しか
もその作り方は、味わい方は——以上を最
も明快にわかりやすく、斯界の第一人者た
る著者が答えているのが本書である。

取次所 川柳雑誌社

川柳とは何か

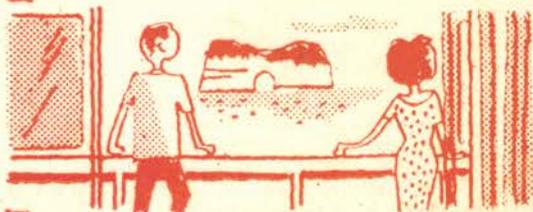
送価 二五〇円
七〇円

至文堂

東京都新宿区弘方町27 振替東京29507

ホテル 白浜温泉 平草原
パシフィック

TEL 白浜温泉733 大阪案内所(64)8686



白浜口ゆき 直通列車
才2きのくに……………毎日 なんば発 12.37
週末準急くろしお 土曜ごと ク 13.10
新宮ゆき 直通列車
なんき1号……………毎日 なんば発 8.10
夜行直通……………ク ク 22.07

のりば大阪なんば **南海電車**